東京医科大学医学部看護学科

2025 年度卒業生アンケート

結果報告書

東京医科大学教育 IR センター

東京医科大学　看護同窓会

巻頭言

患者とともに歩む看護職の育成



東京医科大学　学長　宮澤 啓介

このたび、2025 年度卒業生アンケート調査の結果をご報告いたします。本アンケートは、卒業生の皆様が社会でどのような歩みを続けているのか、また、本学で培った学びが医療・看護の現場でどのように生かされているのかを把握し、教育の質向上につなげることを目的として継続的に実施しているものです。ご多忙の中、ご協力くださいました卒業生の皆様に心より御礼申し上げます。

あらゆる人々の健康と生活に寄り添い、その人らしい人生と尊厳を支える看護師は、社会にとって崇高で、かけがえのない職業の一つであると私は信じています。世界に類を見ない超高齢社会を迎えたわが国では、医療技術や AI・デジタル技術がどれほど進歩しても、人に寄り添い、不安や苦しみを受け止める看護の本質は変わることはありません。むしろ、その精神と社会的役割は、これからの社会においてますます重要性を増していくものと考えています。

本学は、「患者とともに歩む医療人を育てる」ことをミッションとして掲げています。私たちが目指すのは、確かな知識と技術に加え、思いやりの心をもって患者一人ひとりの人生に寄り添い、高い倫理観のもとに最善の看護を実践できる人材の育成です。教職員一同、この使命に誇りを持ち、日々学生と向き合っています。

今回の調査では、多くの卒業生が、本学で培った倫理観や協調性、看護実践に必要な知識・技能を身につけることができたと評価しており、本学での学びが卒業後の実践に着実に結実していることが示されました。一方で、看護研究への関心、語学など国際化への対応能力、さらにはデジタル時代に求められる情報活用能力については、さらなる充実の必要性も明らかになりました。卒業生の皆様から寄せられた率直なご意見を真摯に受け止め、社会の変化に応じた教育の改善を重ねながら、これからも患者とともに歩み、社会から信頼される看護職の育成に努めてまいります。

2025 年度　看護学科卒業生アンケートに寄せて



東京医科大学医学部　看護学科長　小室 佳文

卒業生の皆様は、多くは医療の現場で活躍され、また、場を変えてキャリアを積んでいる方もあります。社会に対し幅広く貢献されている様子に力強さや逞しさを感じ、AI などの導入によって変化の大きい時代でも高い倫理観に基づく素晴らしい活動をされていくことと思います。ぜひ今後も自己研鑽を続けて頂き、大学院看護学研究科での探求も研鑽の選択肢に加えていただけたら幸いです。

大学の環境やカリキュラムは総じて高く評価されましたが、改善が必要な事柄について具体的なご指摘もいただきました。「看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 6 年度改訂版）」の発出に伴い、2 回目のカリキュラム改正に向け準備を進めていますので、これまで頂いた評価を活かし高い学習効果が得られる魅力的なものとなることを目指しています。変化する社会の中でも卒業生が生き生きと活躍する力を身に付けることができるように、教職員が一丸となって話し合っています。

キャリアを重ねそれぞれの場で指導的な役割を果たされている方には、今後、在校生へご経験の紹介をお願いすることや、学習のアドバイスをしていただく機会があると思います。ぜひキャンパスに足を運んで頂き、近況を伺うことを楽しみにしています。

今回もご協力いただいた卒業生の皆様に御礼を申し上げます。また、アンケートを実施、分析を行い、報告をまとめて頂いた教育 IR センターの皆様に深謝いたします。本学の改善のために、今後もより多くの方からご協力いただけますようお願い申し上げます。

2025 年度看護学科の卒業生アンケートに寄せて



東京医科大学看護同窓会会長　石塚 睦子

連日ニュースでは、日本全国各地の猛暑と熱中症の患者さん情報が伝えられ、世界に目を向ければ、武力で人の尊い命や環境が破壊されることが放送され、胸の痛むことの多い今日この頃です。

そのような中、今年も卒業生アンケートが手元に届きました。卒業生の皆様のアンケートへのご協力に感謝するとともに、データの収集・分析に尽力された教育 IR センターの教職員の皆様には、心よりねぎらいの言葉を送りたいと思います。

昨年度同様、今年度のアンケートは、卒後 1 年目、2 年目、5 年目の卒業生が対象とされていました。その内、卒後 5 年目の 2021 年度卒業生は、新型コロナウイルス感染症症（COVID-19）禍で過ごされた世代になります。社会生活は様々な制限を受け、人との交流はマスク越しとなり、学習では遠隔授業を経験し、主要な行事や式典は規模縮小・自粛の中で執り行われ、期待していた大学生活はかなり違ったものであったことでしょう。そのことも踏まえつつアンケートを読ませていただきました。

東京医科大学のミッション「患者とともに歩む医療人を育てる」についてどの程度近づけたか、という問いに対しては、卒後 1･2 年目の方達に比べると 5 年目の方達は少々低い傾向でした。コロナ禍での人間関係やストレスが、学びに影響を与えた結果とも考えられますが、ネガティブな側面だけでなく、コロナ禍を経験したからこそ「普通の生活の幸せ」「人間関係の重要性」などを再認識するといったポジティブな側面、成長した面もあったのではないかと考えます。また、「授業や活動を通して倫理観その他について身につけた能力」については、卒業年が新しいほど「身についた」と答えた人の割合が多く見られていました。カリキュラムに対する満足度も高い結果でした。

教育は、教育を受ける人の 評価・満足度が大切です。一部改善すべき点への意見もあり、そこは受け止める必要性がありますが、全体的に好結果であったことは、毎年の卒業生アンケート結果を踏まえて、教職員の皆様が教育の質の維持・改善に努力されているからこそと考えます。

卒業生の皆様には、これからも周囲の人々と協働し、人間だからできることを活かせる看護職の価値を実感しながら 社会に貢献していって頂けると嬉しい限りです。

看護学科

目次

1. はじめに 6

2. 調査基本情報 6

2.1 調査概要 6
2.2 調査項目（資料を参照） 7

3. 調査結果 8

Q1. 卒業年 8
Q2. 性別 8
Q3. 卒業直後の進路 9

卒業直後に就職した人の
Q4. 就職先 10
Q5. 職種 11
Q6. 雇用形態 12
Q7. 勤務の継続 13
Q8-1. 勤続年数 14
Q8-2. 退職理由 14

卒業直後に進学・そのほかの人の
Q9. 現在の状況 15
Q10. 職種 16
Q11. 雇用形態 16
Q12. 勤続年数 17
Q13. 勤務地 18
Q14. 取得資格 18
Q15. 取得学位 19
Q16. 卒業後の意識や行動の変化 20
Q17. 卒業後のボランティアや社会貢献活動への参加（自由記載） 20

東京医科大学に対する評価
Q18. ミッション達成度調査 21
Q19. 教育到達目標の適切性 23
Q20. 身についた能力 25
Q21. カリキュラムの満足度 32
2023 年度卒まで（2013 カリキュラム）/2024 年度卒（2021 カリキュラム） 32
Q21-2. カリキュラムへの意見（自由記載） 37
Q22. 在学中にもっと学びたかった項目 38

Q23. 母校の良かった点 39

Q24. 母校の改善すべき点 43
Q25. 母校の総合的評価 46
Q26. 意見や要望（自由記載） 49
4. まとめ 50
＜資料＞
1. 卒業生アンケート質問票 52
5. おわりに 60

1. はじめに

東京医科大学医学部看護学科は 2013 年に開設され、2026 年現在 14 年目を迎えている。2016 年度に初めて卒業生が誕生し、2025 年度末で 886 名が卒業した。

2013 年の薬学分野を皮切りに、日本でも高等教育における質保証を行う目的から医療系の専門分野における分野別評価が開始されている。分野別評価とは、その分野の教育活動について自己点検評価した内容が評価基準に適合しているかを問われるものである。看護学分野も、薬学（2013 年評価事業開始）、医学（2017 年評価事業開始）に次いで、2020 年に日本看護学教育評価機構（Japan Accreditation Board for Nursing Education ；JABNE）により、分野別評価を開始しており、2022 年度に東京医科大学医学部看護学科も受審をして、「適合」を得た。JABNE による評価項目には、「評価項目 3-3　雇用者・卒業生からの評価と改善」として「16. 卒業生に教育プログラムに対する満足度調査、卒業後の動向調査をしている」という内容が含まれており、卒業生からの評価は、自己点検のための重要な指標とされている。

以上を踏まえ本調査は、これまで東京医科大学医学部看護学科を卒業した卒業生を対象に、キャリアの実態・動向を把握すると共に、在学時のカリキュラムや学校環境等を卒業生の視点から評価することによって、今後の看護学科のカリキュラムや教育プログラムの改善に向けた基礎資料（エビデンス）を得ることを目的に行うものである。

2023 年度までは、全卒業生にアンケート回答を依頼していたが、卒業生が毎年回答する負担を考慮し、2024 年度以降は、卒後臨床研修等で変化の大きい卒後 1、2、5 年の卒業生を対象者としてアンケート調査を実施している。

2. 調査基本情報

2.1 調査概要

① 調査期間：2026 年 1 月 1 日～2 月 28 日

② 調査対象：

卒後１年目	2025 年 3 月卒業生
卒後２年目	2024 年 3 月卒業生
卒後５年目	2021 年 3 月卒業生

③ 調査方法：調査用紙は、教育 IR センター及び同専門委員会で検討、作成した前回の調査用紙を教育 IR センター内で再検討したものを用いた。調査対象者への回答依頼は、東京医科大学看護同窓会（以下、同窓会）が管理している名簿を入手し、記載のある卒業生へ郵送で行った。また、前回行ったアンケートにメールアドレスの記載のあった卒業生、総合事務センターにメールアドレスを報告した卒業生にはメールでも依頼を行った。このほか、人事課の協力により、東京医科大学病院（西新宿、八王子、茨城）勤務の卒業生にも、学内便とメールで依頼を行うことができた。
回答は web 上のアンケートシステム（今回も昨年度と同様に WEB CAS™）を使用した。

④　回収状況：

発送数：247　回答数：120

回収率：48.6%

2021 年 3 月卒（卒後 5 年）・2024 年 3 月卒（卒後 2 年）・2025 年 3 月卒（卒後 1 年）の卒業生計 260 名のうち、同窓会で住所を把握している 247 名にアンケートの回答依頼を郵送で行った。そのうちのメールアドレスを把握している卒業生にはメールでも回答依頼を送付し、全体で 120 名から回答を得た。回収率は 48.6%であった。

表 1　卒業年別卒業生数、回答数、回収率

卒業年	卒業生数	送付者数	回答数	回収率（%）
2021 年（卒後 5 年）	87	75	34	45.3
2024 年（卒後 2 年）	93	92	47	51.1
2025 年（卒後 1 年）	80	80	39	48.8
合計	260	247	120	48.6

2.2 調査項目（巻末の調査用紙を参照）※赤字は 2025 年度からの変更・追加項目

属性に関する質問

Q1. 卒業年、Q2. 性別

卒業後のキャリアに関する質問

Q3. 卒業直後の進路

・卒業直後に就職した人の Q4. 就職先、Q5. 職種、Q6. 雇用形態、Q7. 勤務の継続、Q8-1. 勤続年数、Q8-2. 退職理由

・卒業直後に進学・その他の人の Q9. 現在の状況、Q10. 職種、Q11. 雇用形態、Q12. 勤続年数、Q13. 勤務地

・卒業後の Q14.取得資格、Q15.取得学位

卒業後の意識や行動の変化に関する質問

Q16. 卒業後の意識や行動の変化、Q17. 卒業後のボランティアや社会貢献活動への参加

東京医科大学の教育についての質問

Q18. ミッション達成度調査、Q19. 教育到達目標の適切性、Q20.身についた能力、Q21. カリキュラムの満足度（2013 カリキュラム/2021 カリキュラム）、

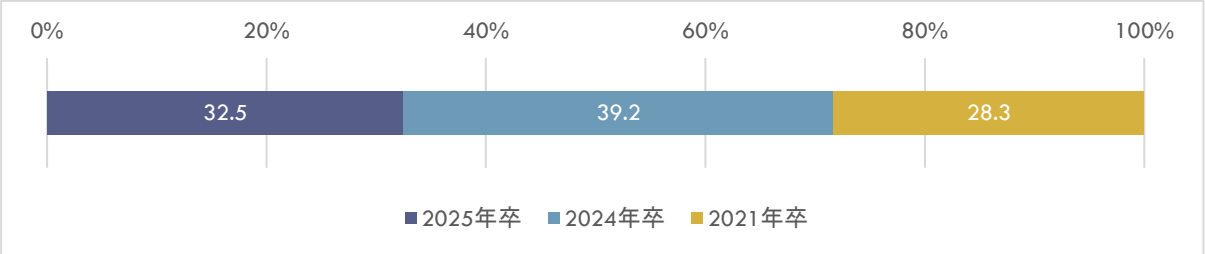
Q21-2. カリキュラムへの意見（自由記載）、Q22. 在学中にもっと学びたかった項目、

Q23. 母校の良かった点、Q24. 母校の改善すべき点、Q25. 母校の総合的評価、Q26. 意見や要望（自由記載）

3. 調査結果

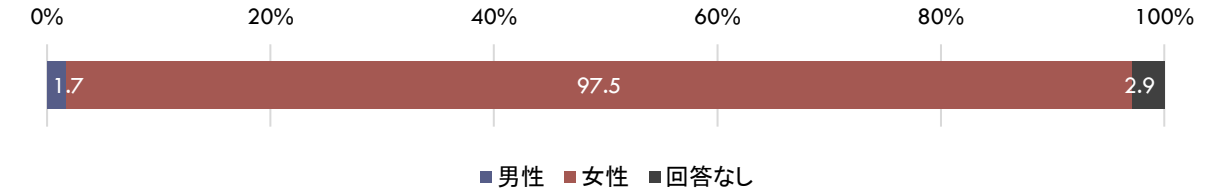
属性に関する質問

Q1.あなたの卒業年を教えてください。

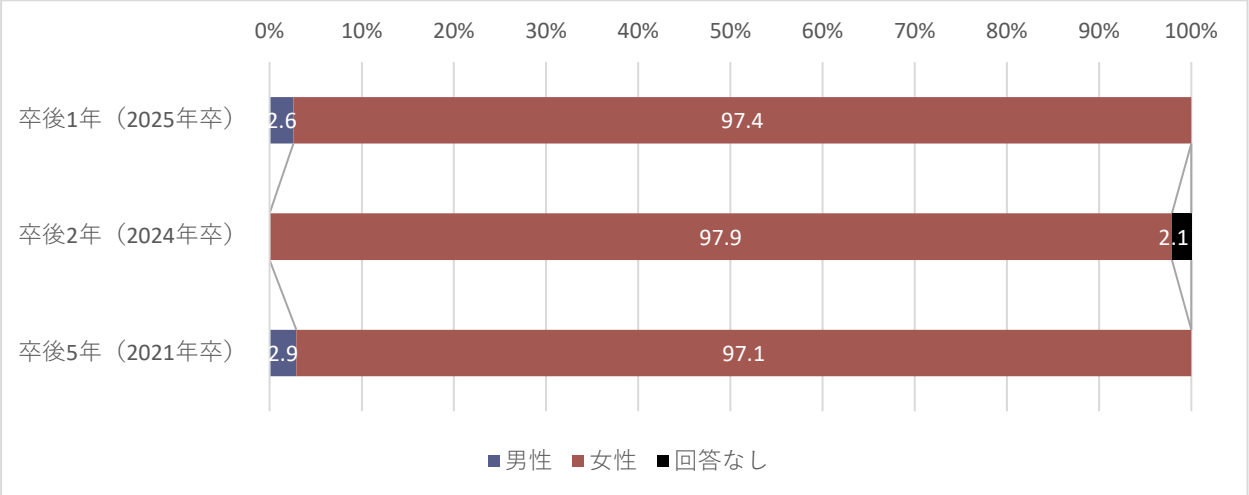


Q2.性別を教えてください。

【全体】



【卒業年別】

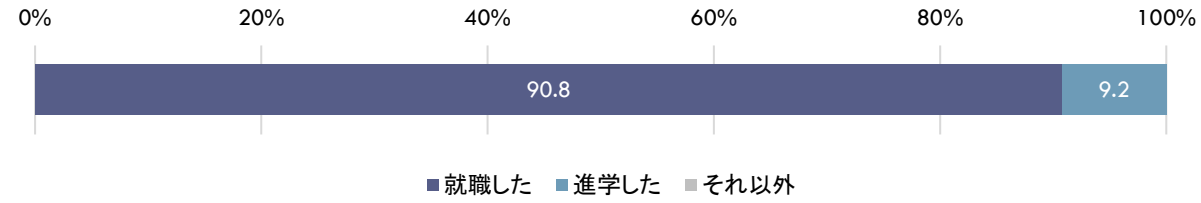


卒業後のキャリアに関する質問

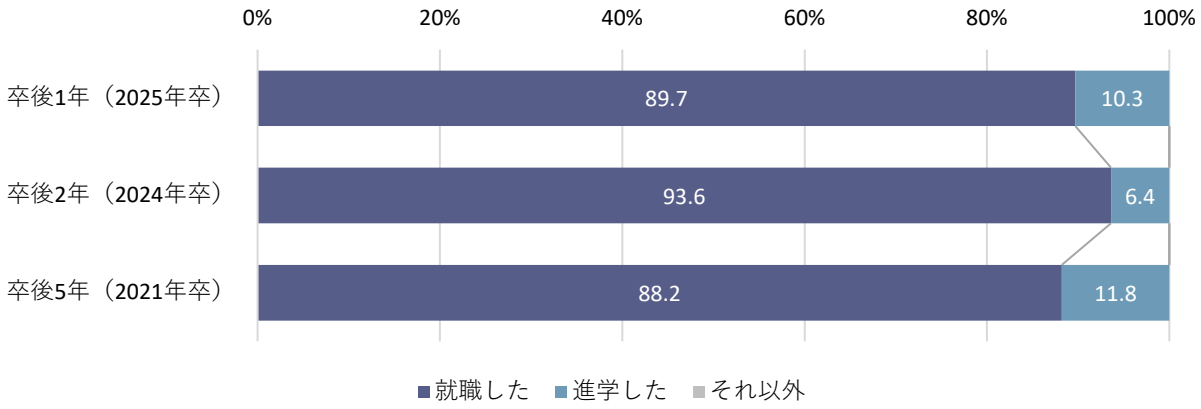
Q3.卒業直後の進路を教えてください。

卒業直後は、全体として 90.8%が就職していた。卒業年別に見ても、約 88%以上の割合で就職していることが分かる。「それ以外」を選んだ回答はなかった。

【全体】



【卒業年別】



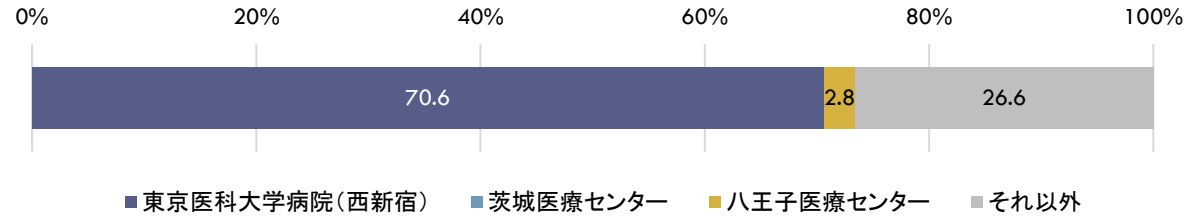
「進学した」と回答した人の自由記述：

上智大学助産学専攻科（2）、純心大学別科助産専攻、昭和大学助産学専攻科、聖路加国際大学大学院、東京医科大学病院、東京医療保健大学、日赤看護大大学院、日本大学大学院、浜松医科大学大学院助産師養成コース

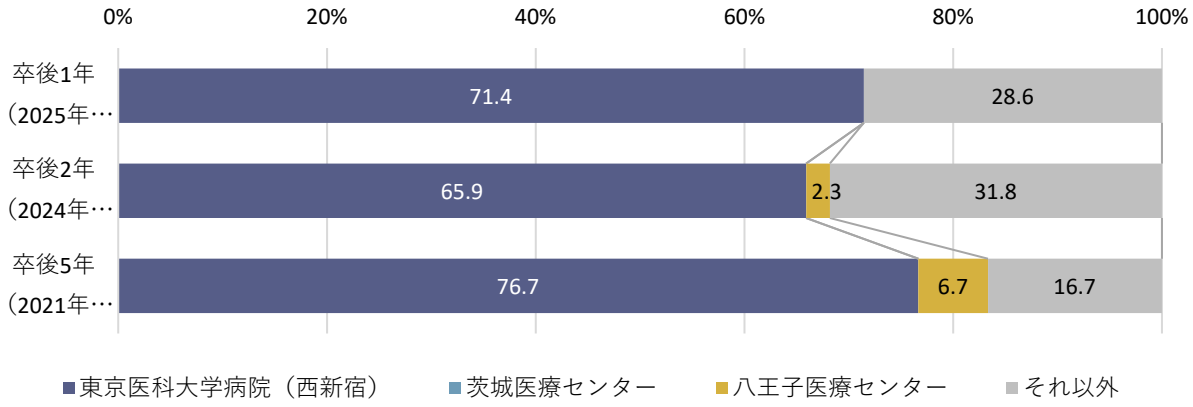
Q4.（Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ）卒業直後の就職先はどちらですか。

卒業直後は、全体として約 7 割が東京医科大学病院（西新宿）に就職しており、前年度の調査（58.0%）より増加している（2023 年度卒業生の医大病院就職率が 51.3%と他の年度より低かった影響か）。卒業年別で見ても、約 66～77%の割合となっている。

【全体】



【卒業年別】

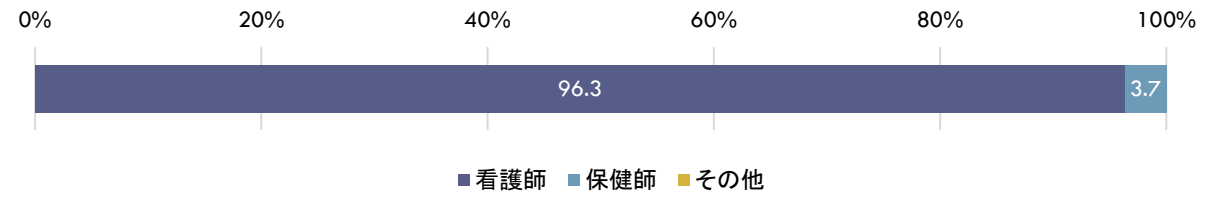


「それ以外」と回答した人の自由記述：慶應義塾大学病院（2）、虎の門病院（2）、東京科学大学病院（2）、株式会社 VR IMAGINATORS、国立国際医療研究センター病院、慈恵医科大学病院、昭和医科大学病院、神奈川県立がんセンター、筑波大学附属病院、長谷川病院、横浜市、藤沢市、品川区

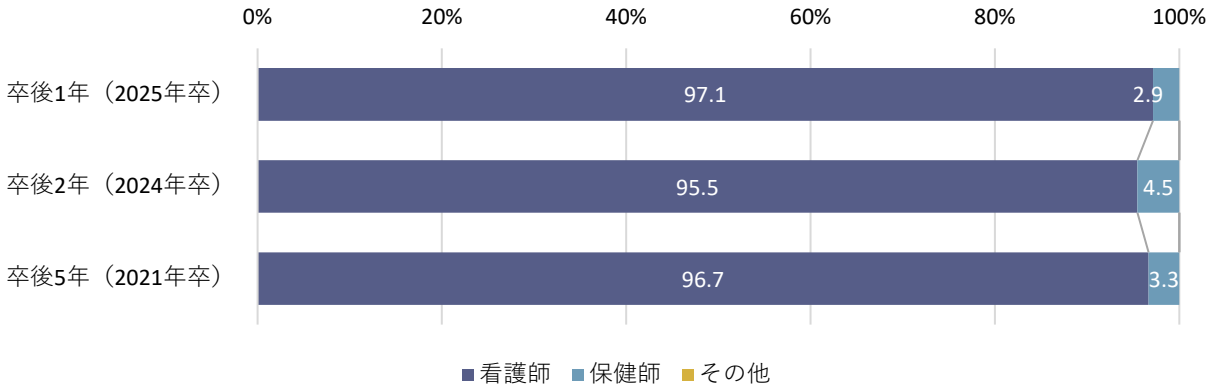
Q5.（Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ）卒業直後の業務上の職種を教えてください。

卒業直後の就職時の職種は、全体としては看護師として就職している者が 96.3%、保健師が 3.7%、その他はいなかった。卒業年別に見ても、95%以上が看護師として就職している。

【全体】



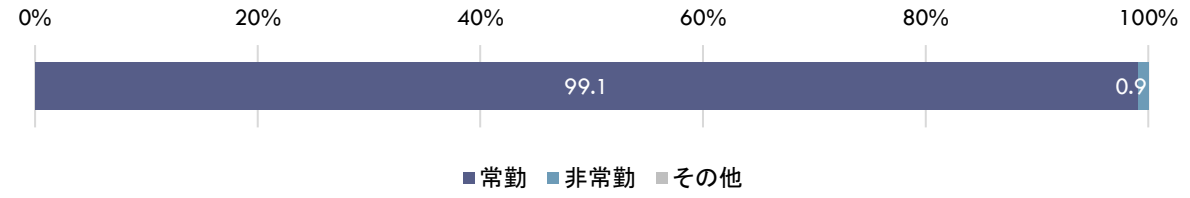
【卒業年別】



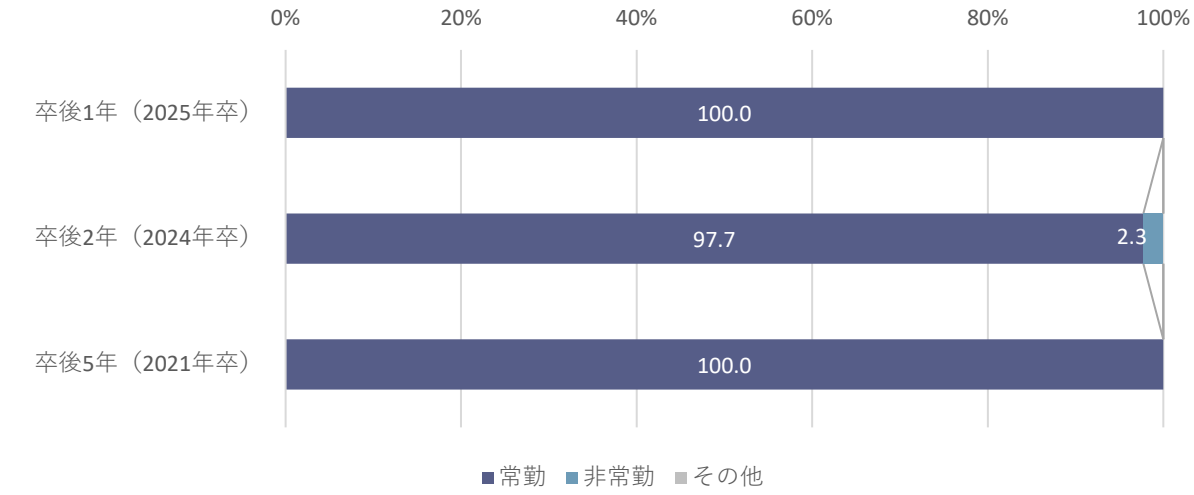
Q6.（Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ）卒業直後の雇用形態を教えてください。

卒業直後の雇用形態は、99.1%が常勤と回答しており、2024 年卒に若干数の非常勤を含む。

【全体】



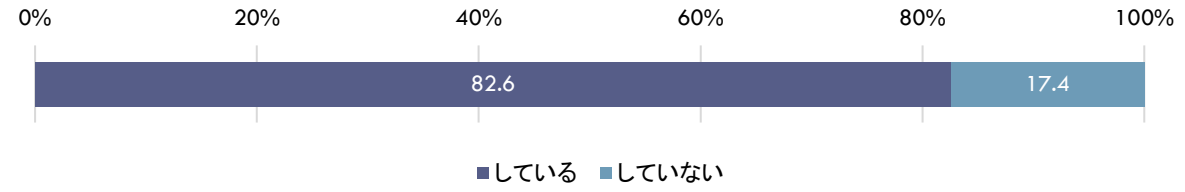
【卒業年別】



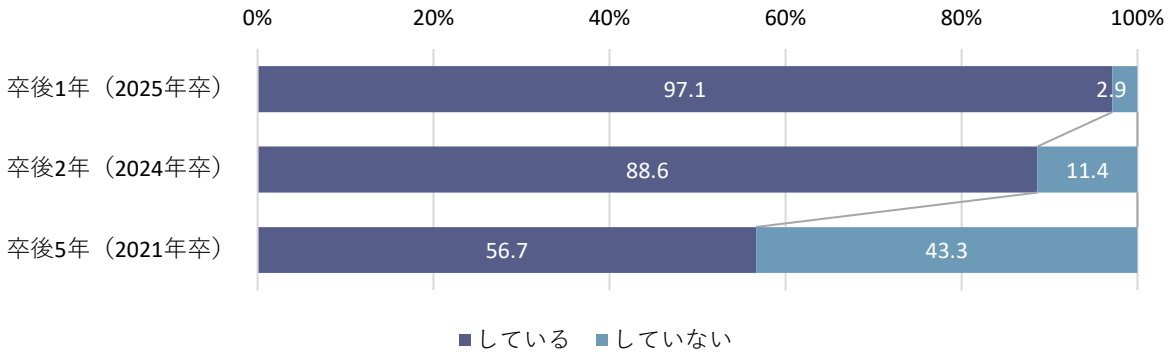
Q7.（Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ）現在も同じ所に勤務していますか。

卒業直後の就職先で勤務継続している者は全体として 82.6%であった。卒業年別で見ると、一年以内で勤務先から離れる者はほぼ無く、卒後 2 年で約 1 割、卒後 5 年で 4 割以上が最初の勤務先を離れていることがわかる。この傾向は、前年度の報告書でも同様であるが、卒後 2 年・卒後 5 年卒業者の同じ所に勤務している割合が、前年度よりやや増加している。

【全体】



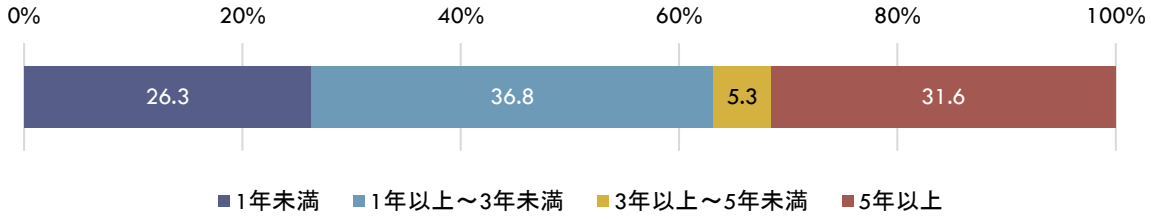
【卒業年別】



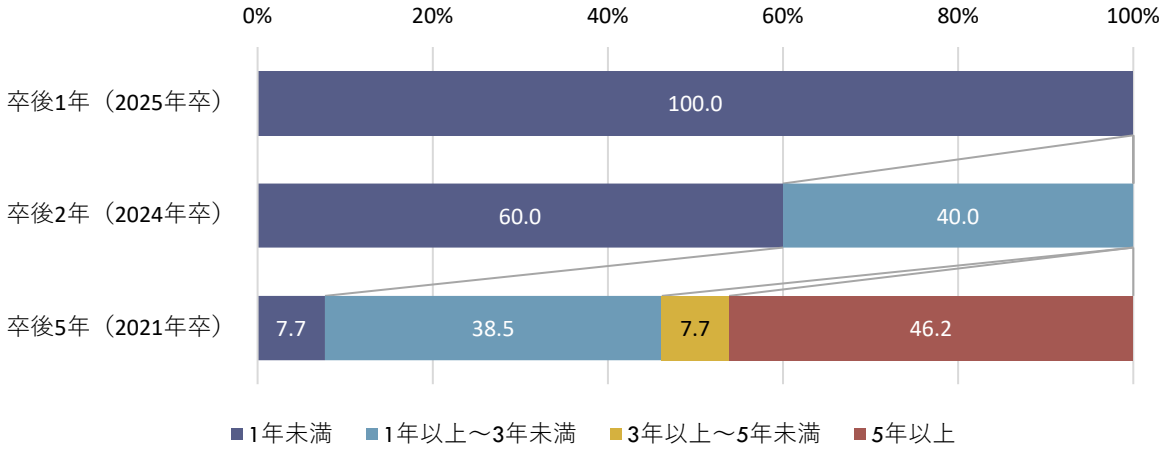
Q8-1.（Q3 で卒業直後に「就職した」と回答し、Q7 で現在も同じ所に勤務「していない」と回答した人へ）卒業直後の勤務先の勤続年数を教えてください。

回答者数は、19 名（120 名中）であった。卒後 5 年（2021 年卒）は、46.2%が 5 年以上勤務していると回答しており、前年度（2020 年卒）が 26.3%であったのと比較すると、大きく増加している。

【全体】（19 名）



【卒業年別】回答者の内訳は、卒後 1 年/1 名、卒後 2 年/5 名、卒後 5 年/13 名であった。



Q8-2. 退職理由を教えてください（自由回答）。

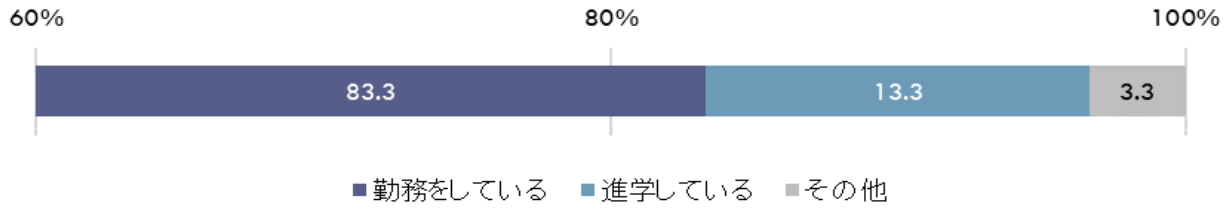
パワーハラスメント（2）、転職、引っ越し、結婚による引っ越し、ワークライフバランスが保てなくなったため、仕事による適応障害、人間関係、大学病院という特色から多忙となってしまい残業が多くなったため、労働環境・業務内容の不満

Q9-Q12 は、卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した者（9.2%）への質問である。

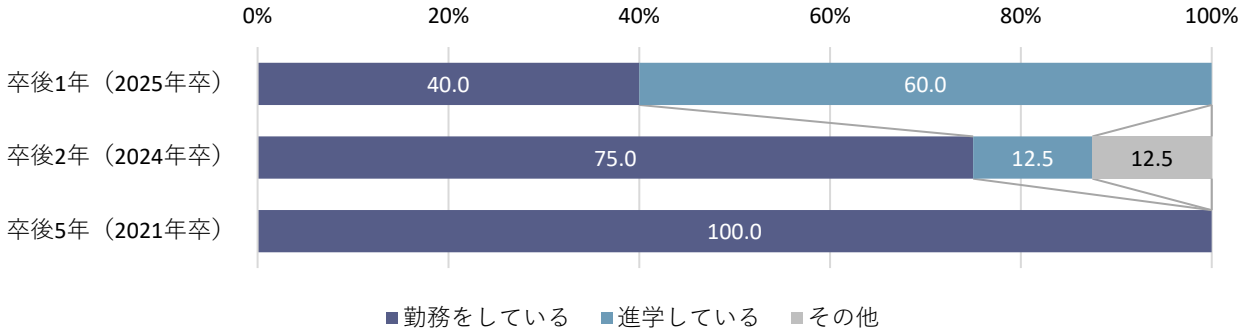
Q9.（Q3 で卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した人へ）現在の状況を教えてください。

回答者は 30 名（120 名中）であった。卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した者のうち、現在勤務している者は 83.3%であり、前年度の 69.4%より増加し　　ンている。進学者(13.3%)の内訳は、卒後 1 年目（2025 年卒）の者がほとんどを占めるが、卒後 2 年（2024 年卒）も進学している。卒後 5 年（2021 年卒）は全員が勤務であった。

【全体】（30 名）



【卒業年別】 回答者の内訳は、卒後 1 年/5 名、卒後 2 年/8 名、卒後 5 年/17 名であった。



- 「勤務をしている」と回答した人の自由記述（具体的な勤務先名）：東京医科大学病院、なぎさスキンクリニック尾山台、機能型リハビリテーションレコードブック、昭和医科大学病院、増子記念病院、長谷川病院、東京逓信病院、血液内科、日本航空株式会社、林野庁、私立小学校
- 「進学している」と回答した人の自由記述（具体的な進学先名）：上智大学助産学専攻科、純心大学別科助産専攻、浜松医科大学大学院助産師養成コース
- 「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）：就職活動中

Q10-Q12 は、卒業直後に「進学」＞「現在は勤務している」と回答した者への質問である。

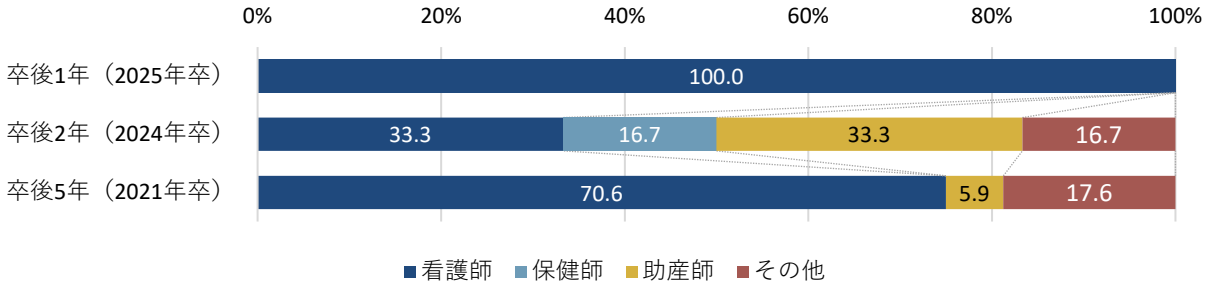
Q10.（Q3 で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9 で現在は「勤務している」と回答した人へ）現在の業務上の職種を教えてください。

回答者は 25 名（120 名中）であった。卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答し、現在は「勤務している」と回答した者に現在の業務上の職種を尋ねたところ、看護師が 64.0%と大きく割合を占め、保健師が 4.0%、助産師が 12.0%、その他が 16.0%であった。保健師は前年度（20.0%）より減少し、卒後 2 年（2024 年卒）のみである。また、その他は前年度（全体で 4.0%）より増加している。卒後 5 年（2021 年卒）では、進学等を選んだのちに看護師として就職する割合が高い状況が見えるが、卒後 2 年（2024 年卒）では助産師と看護師の割合が同等であった。

【全体】（25 名）



【卒業年別】回答者内訳：卒後 1 年＝2 名、卒後 2 年＝6 名、卒後 5 年＝17 名

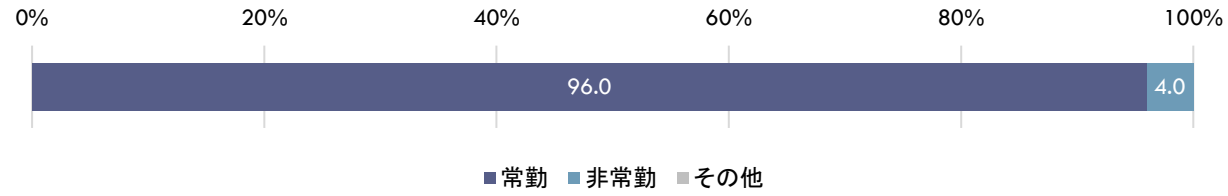


「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）：会社員、公務員、客室乗務職

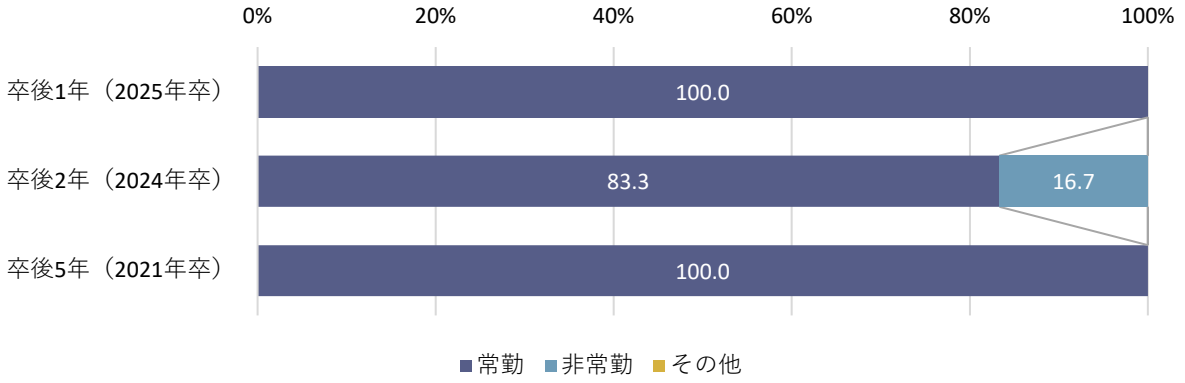
Q11.（Q3 で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9 で現在は「勤務している」と回答した人へ）現在の雇用形態を教えてください。

全体における現在の雇用形態は、92.0%が常勤であった。

【全体】（25 名）

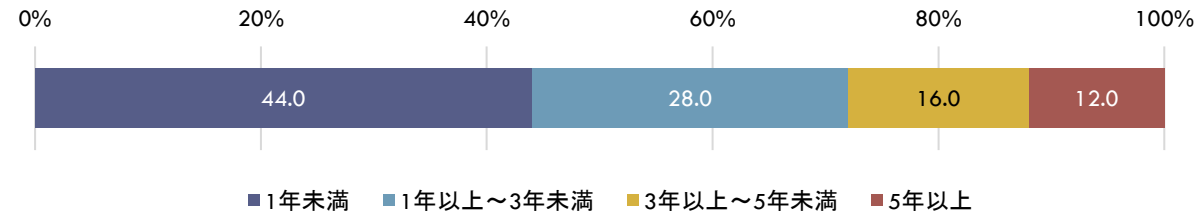


【卒業年別】回答者内訳：卒後 1 年＝2 名、卒後 2 年＝6 名、卒後 5 年＝17 名

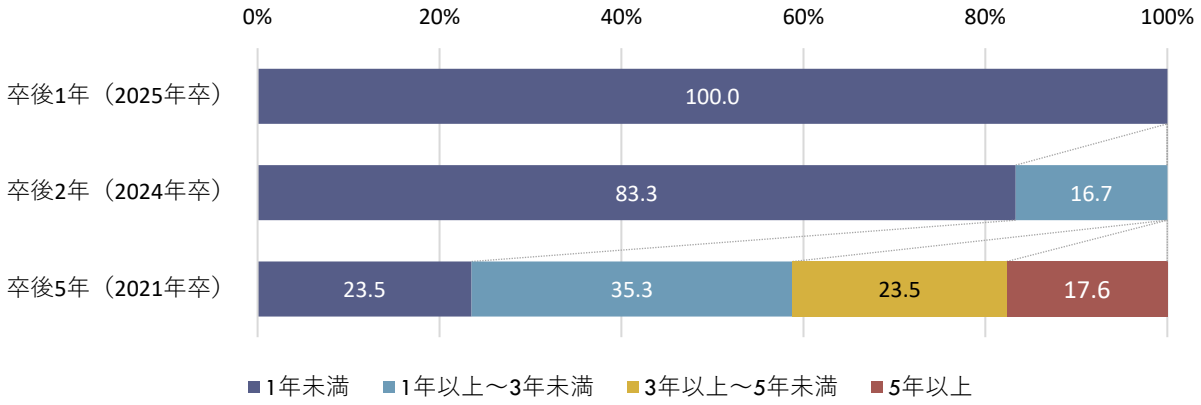


Q12.（Q3 で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9 で現在は「勤務している」と回答した人へ）現在の所属先の勤続年数を教えてください。

【全体】（25 名）



【卒業年別】回答者内訳：卒後 1 年＝2 名、卒後 2 年＝6 名、卒後 5 年＝17 名

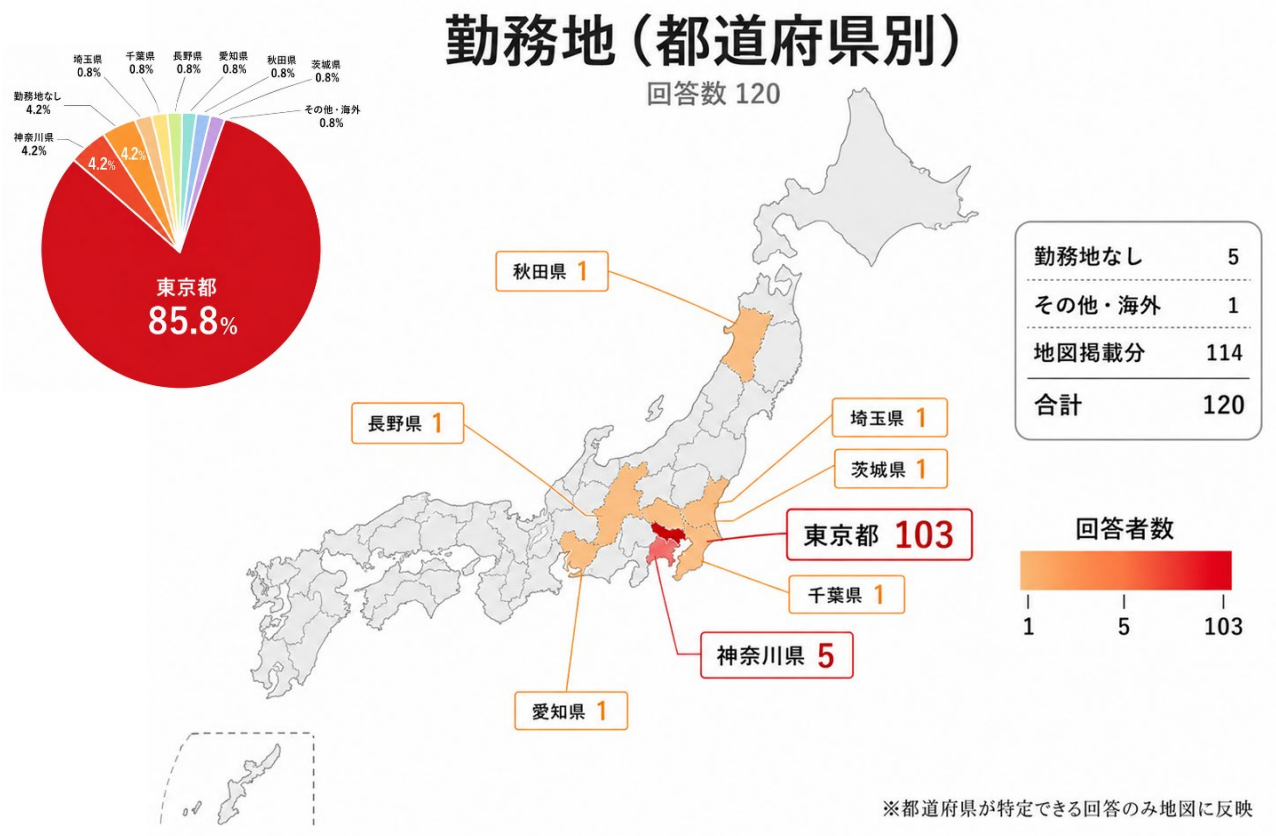


ここから全員に伺います。

卒業後の資格や学位取得について伺います。

Q13. 現在の勤務地を教えてください。勤務されていない場合は「1.勤務地なし」でお答えください。

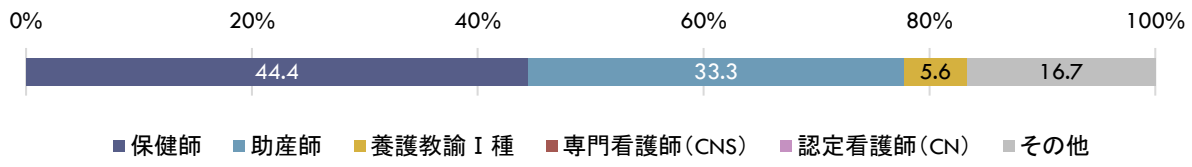
※2025 年度に追加された質問項目



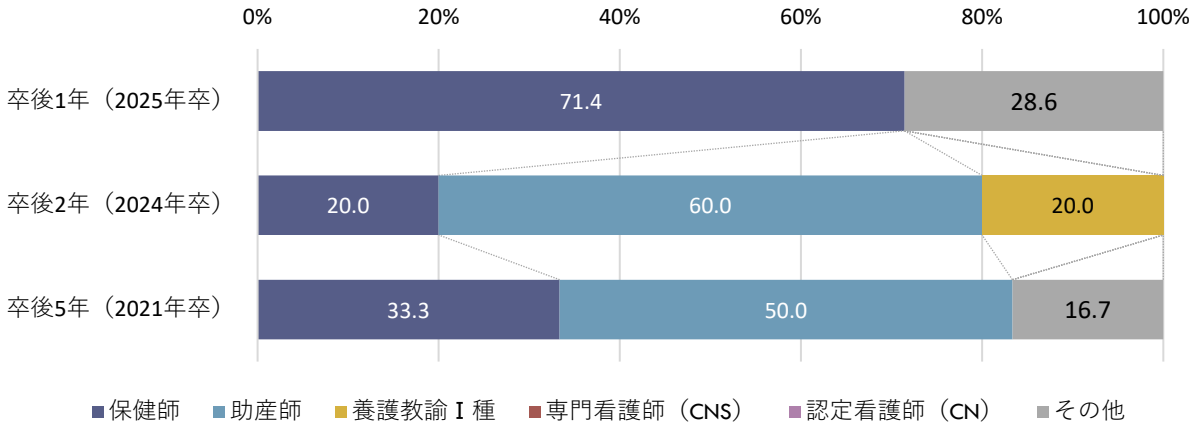
Q14.卒業後に取得した資格を教えてください。

回答者数は 18 名であった。2023 年度までは、専門看護師（CNS）・認定看護師（CN）の資格取得内容について尋ねる項目であったが、2024 年度以降、保健師・助産師・養護教諭I種が追加された。卒業後に取得した資格は、全体では保健師と助産師が約 8 割を占めるが、年度別に見ると 2025 年卒者の取得は保健師のみで、卒後 1 年以上経過してから助産師や養護教諭I種の資格を取得するようになることが分かる。（CNS）は条件に達していないため、取得者はまだ無い。（CN）の取得者は無かった。

【全体】（18 名）



【卒業年別】

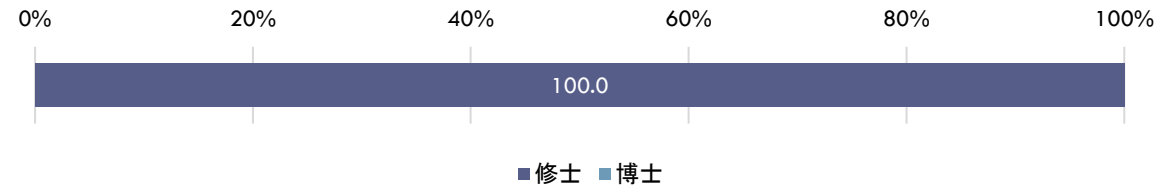


「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）： 助産師免許取得見込み（2）

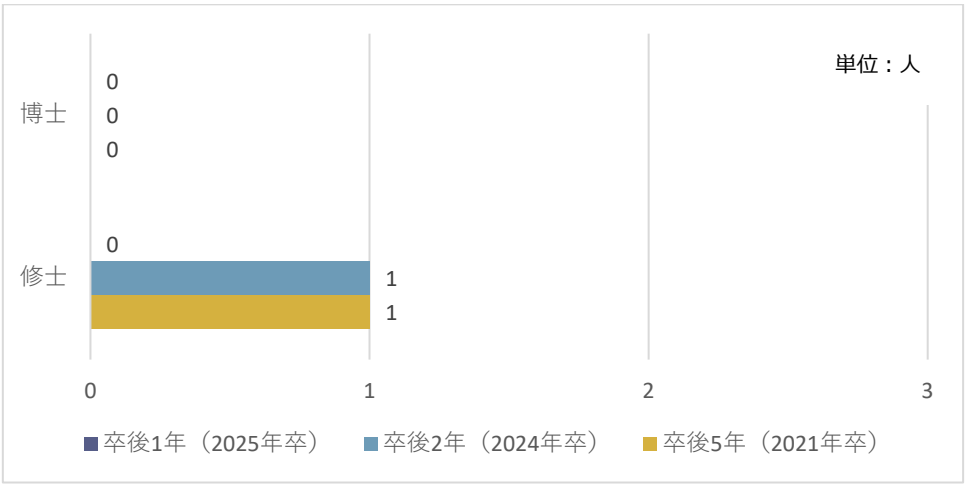
Q15.卒業後に取得した学位を教えてください。

2024 年度以降、取得学位を問う質問が追加された。2024 年度に引き続き、取得学位は修士のみで、博士取得者は 0 であるが、これは質問と調査対象者の卒業年度の関係によるものである。

【全体】



【卒業年別人数】

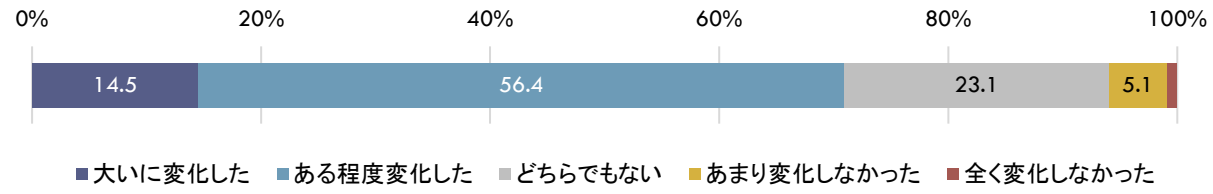


卒業後の意識や行動の変化に関して伺います

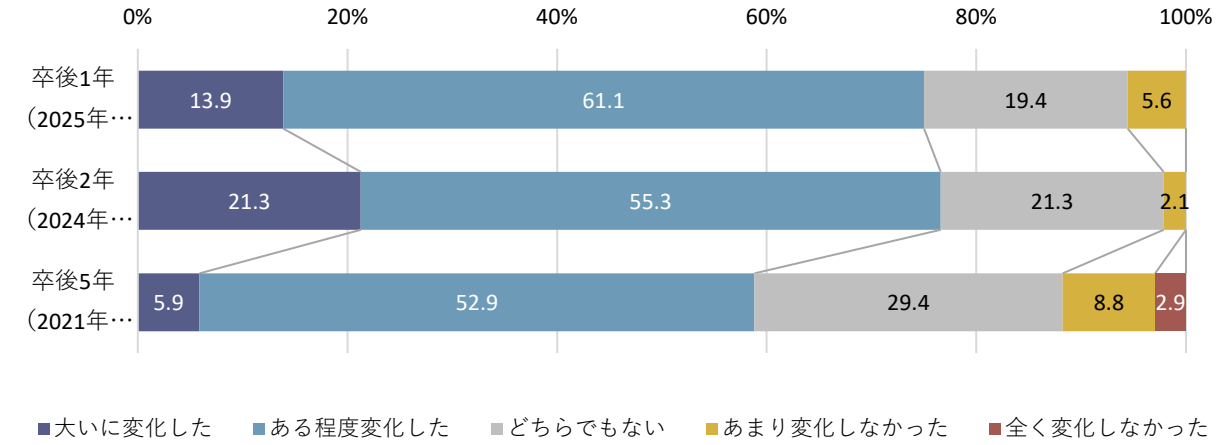
Q16.卒業して社会に出たことで、“医療職として社会に貢献するという意識”は変化しましたか。

変化した（「大いに変化した」と「ある程度変化した」の合計）が、全体の 70.9%だった。年度別に内訳を見ると、卒後 1 年、2 年では、変化した割合が高く、とくに卒後 2 年で「大いに変化した」回答が最も高かった。

【全体】



【卒業年別】



Q17.卒業してから今まで、ボランティア活動や社会貢献活動に参加しましたか。具体的に教えてください（自由回答）。

・高齢者の食事支援
・ひとり親世帯への食品配布ボランティア、国境なき医師団への毎月の寄付
・一般社団法人にて、入院中の中高生向けの対話型 AI サービスに参画
・地域包括支援医療について貢献している

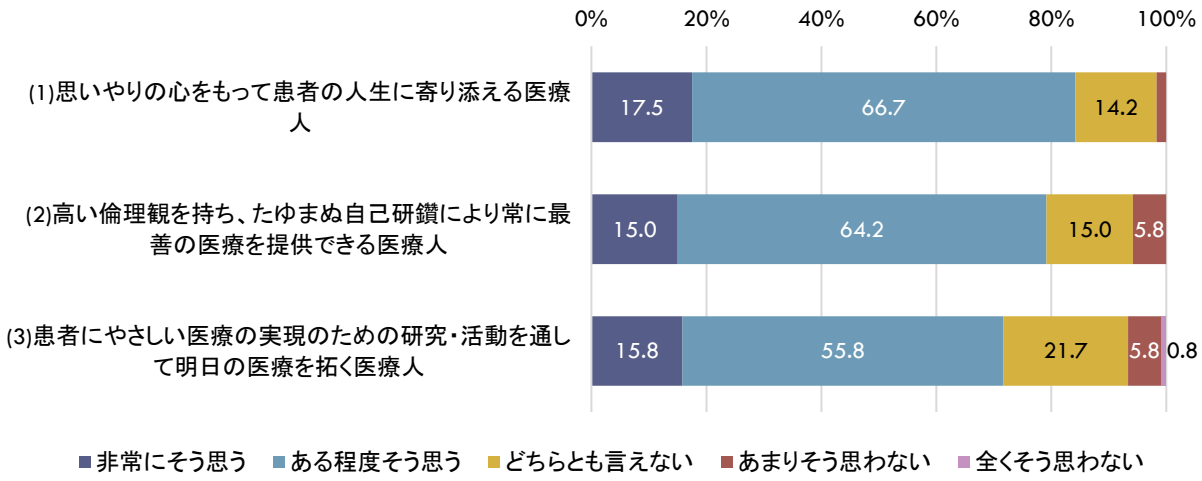
東京医科大学の教育について伺います

ミッション達成度　**※2025 年度に追加された質問項目**

Q18. 東京医科大学のミッション「患者とともに歩む医療人を育てる」について、各項目にどの程度近づけたと感じているか答えてください。

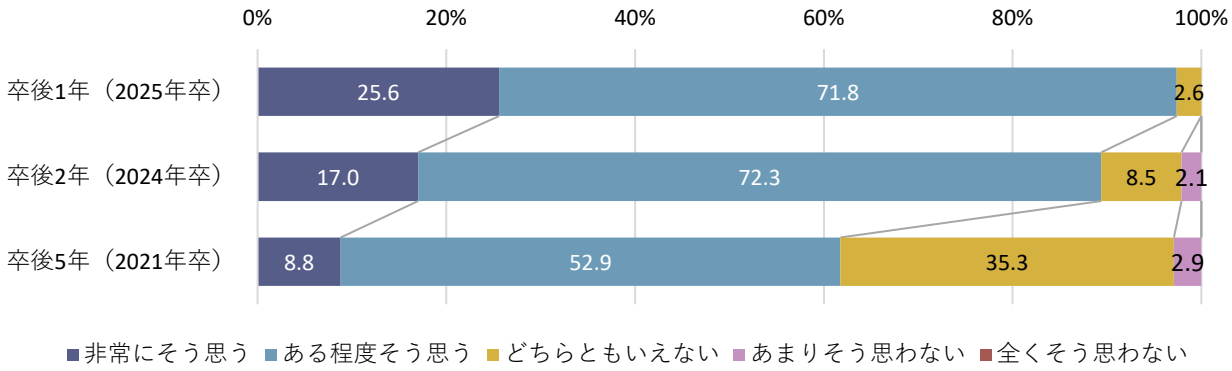
2025 年度に、新たに追加された質問項目である。すべての項目において「非常にそう思う」が 15.0～17.5%、「ある程度そう思う」が 55～66%で、「ミッションに近づけた」と考える割合が 70～80%超という回答結果となったが、「どちらともいえない」と回答した層も一定数存在する。とりわけ、卒後 5 年（2021 年卒）は、「どちらともいえない」という回答が多く、約 3～4 割に及んだ。

【全体】

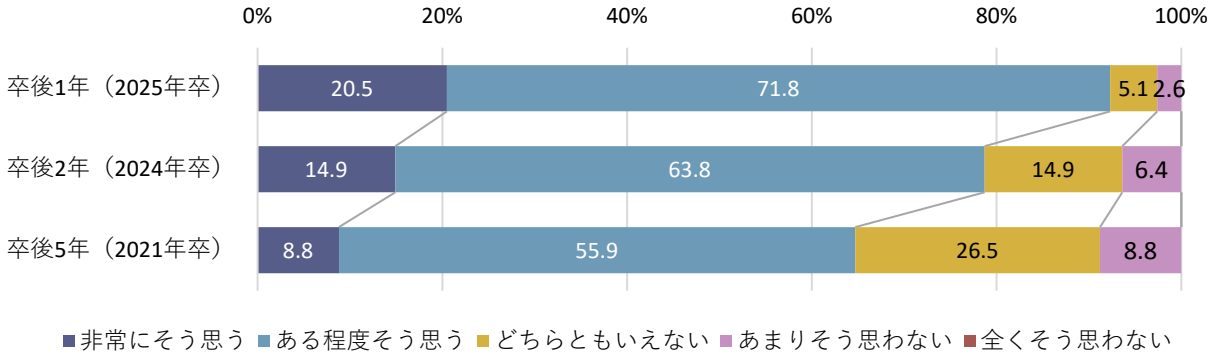


以下、ミッションごとに、卒業年ごとの結果を示す。

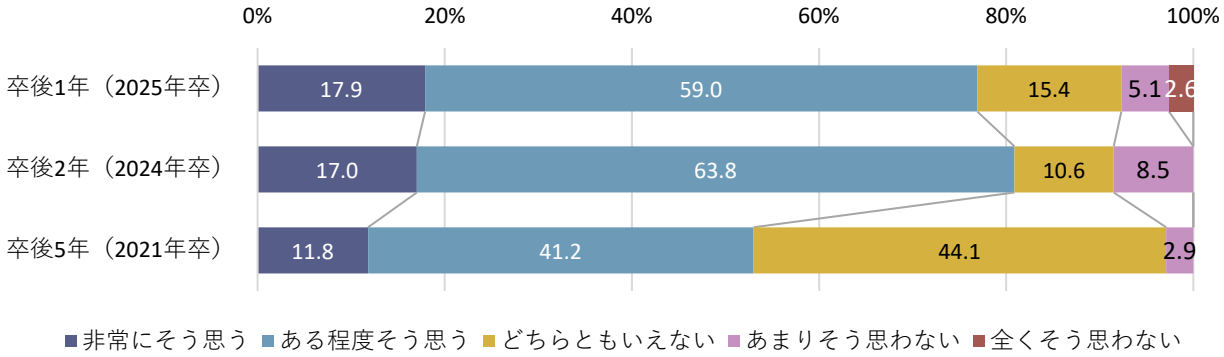
（1）思いやりの心をもって患者の人生に寄り添える医療人



(2) 高い倫理観を持ち、たゆまぬ自己研鑽により常に最善の医療を提供できる医療人



(3) 患者にやさしい医療の実現のための研究・活動を通して明日の医療を拓く医療人

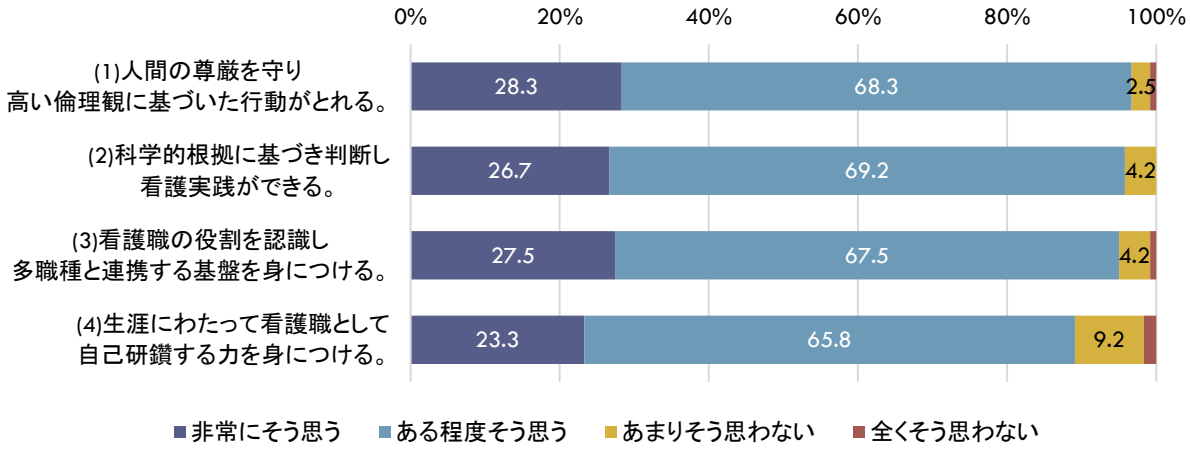


教育到達目標の適切性

Q19. 東京医科大学看護学科では卒業時に達成すべき教育到達目標を定めています。この教育到達目標はご自身の経験に照らして、適切なものであると考えますか。

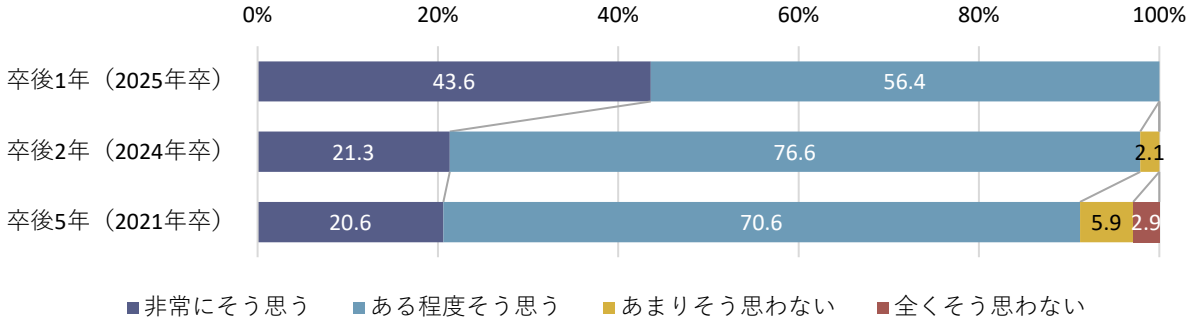
「適切さ」の回答は、すべての項目において「非常にそう思う」が 23.3～28.3%、「ある程度そう思う」が 65.8～68.3%で、「適切である」と考える割合が約 9 割を占める回答結果となった。「あまりそう思わない」「全く思わない」という回答率が高かったのは、(4)「生涯にわたって看護職として自己研鑽する力を身につける」の項目で、主に卒後 5 年（2024 年卒）であった。

【全体】

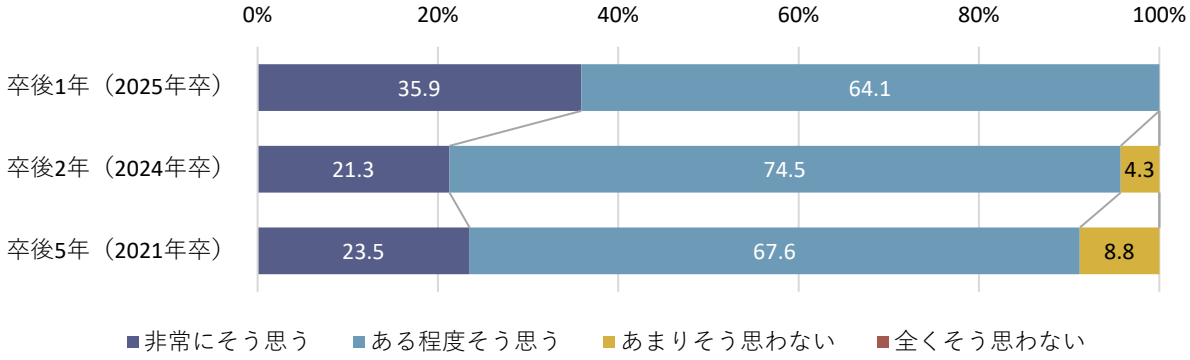


以下、到達目標ごとに、卒業年ごとの結果を示す。

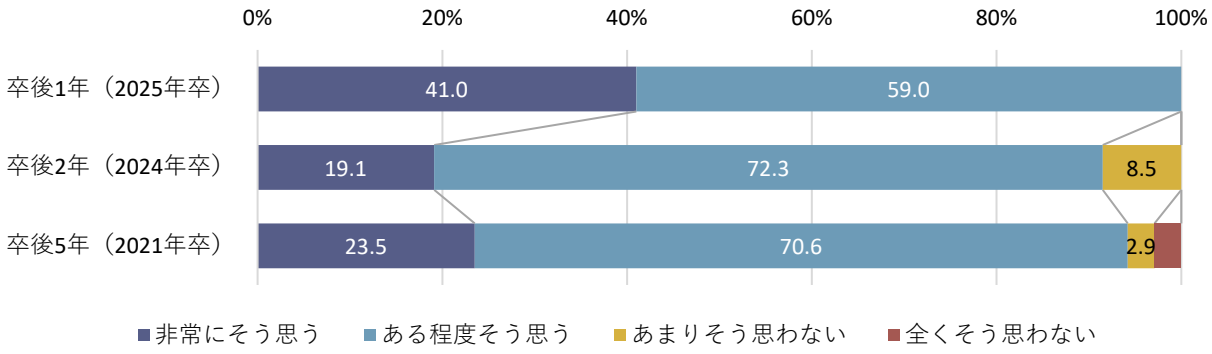
(1) 人間の尊厳を守り高い倫理観に基づいた行動がとれる。



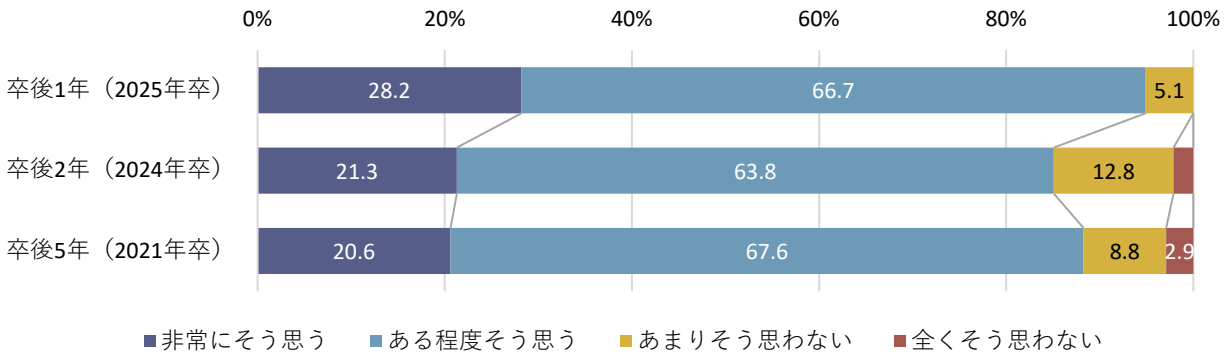
（2）科学的根拠に基づき判断し看護実践ができる。



（3）看護職の役割を認識し多職種と連携する基盤を身につける。



（4）生涯にわたって看護職として自己研鑽する力を身につける。

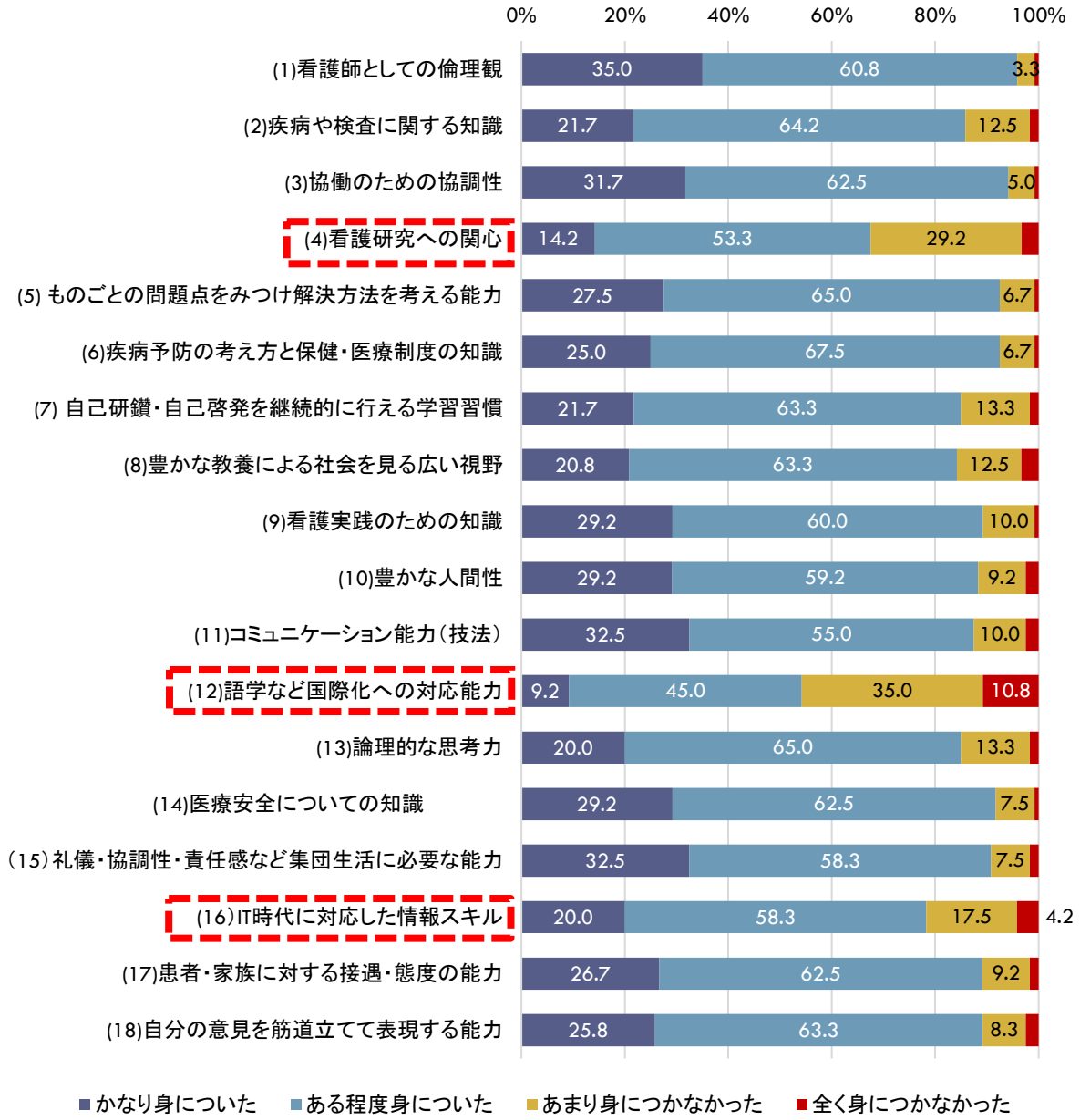


身についた能力

Q20.東京医科大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

項目によって割合が変化するものの、ほとんどにおいて「身についた」(「かなり身についた」と＋「ある程度身についた」) とする割合が 80%以上を超える。その中で、「あまり身につかなかった」の回答が目に付くのは、(4)「看護研究への関心」と (12)「語学など国際化への対応能力」であり、特に (12)「語学～」は、次の Q19.カリキュラムの満足度を問う質問においても最も満足度が低い項目となっている。また、(16)「IT 時代に対応した情報スキル」の回答も「あまり身につかなかった」の割合が比較的高い傾向が見られた。

【全体】

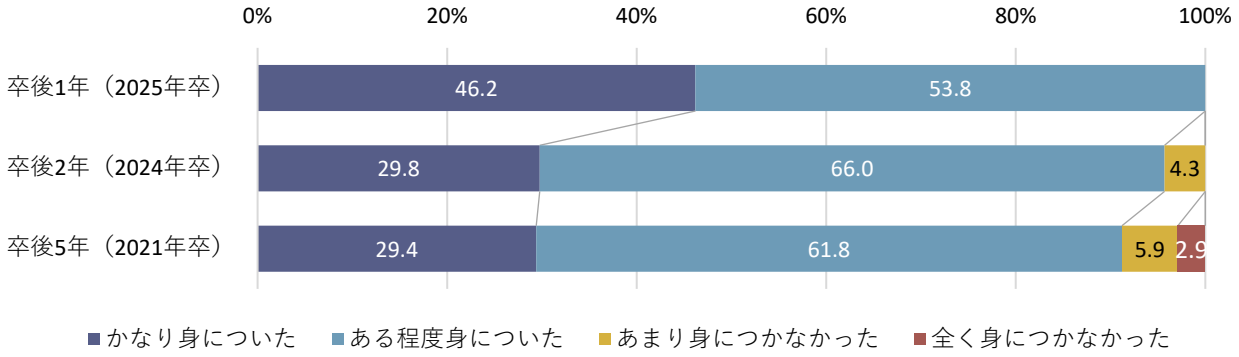


以下、卒業年ごとの結果を示す。

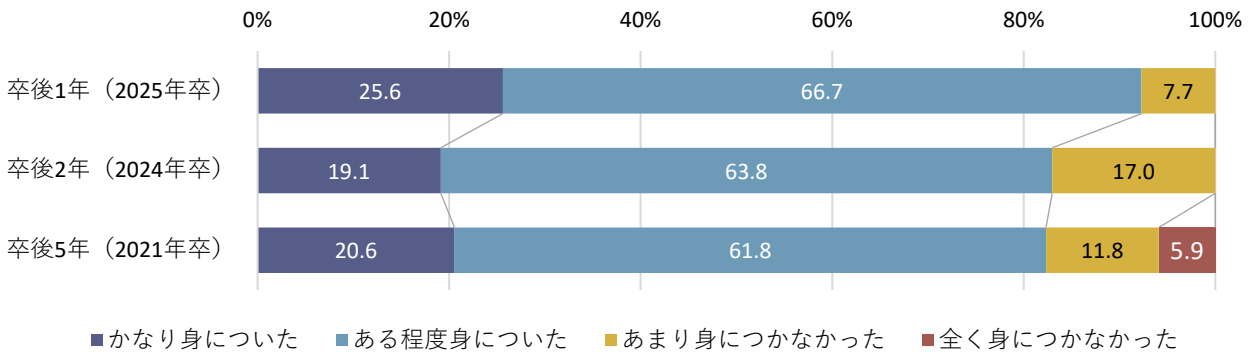
卒後２年（2024 年卒）で一部下がる項目もあるが、卒業年が新しいほど「身についた」と答える割合が高い。とくに「かなり身についた」と答える層の割合が高い傾向にある。

(4)「看護研究への関心」(12)「語学など国際化への対応能力」(16)「IT 時代に対応した情報スキル」は、とくに卒後 5 年（2021 年卒）で、「あまり身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が高かった。

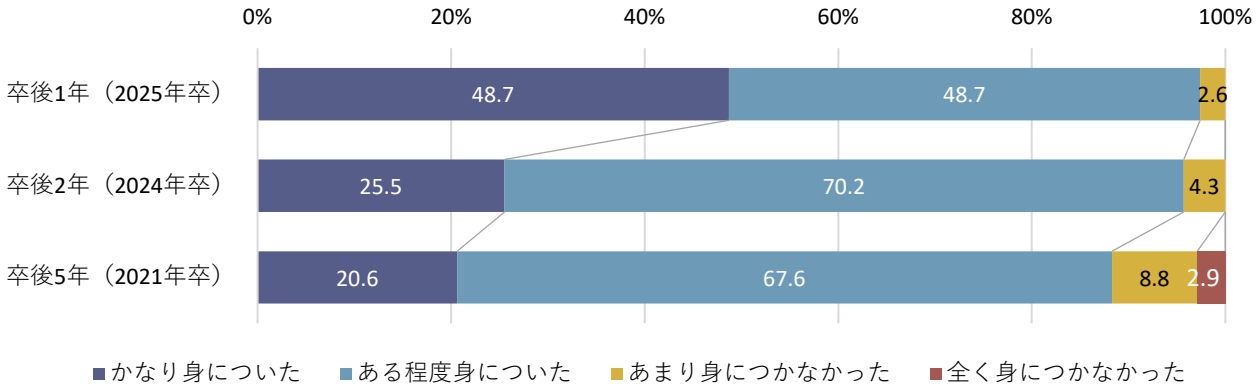
(1) 看護師としての倫理観



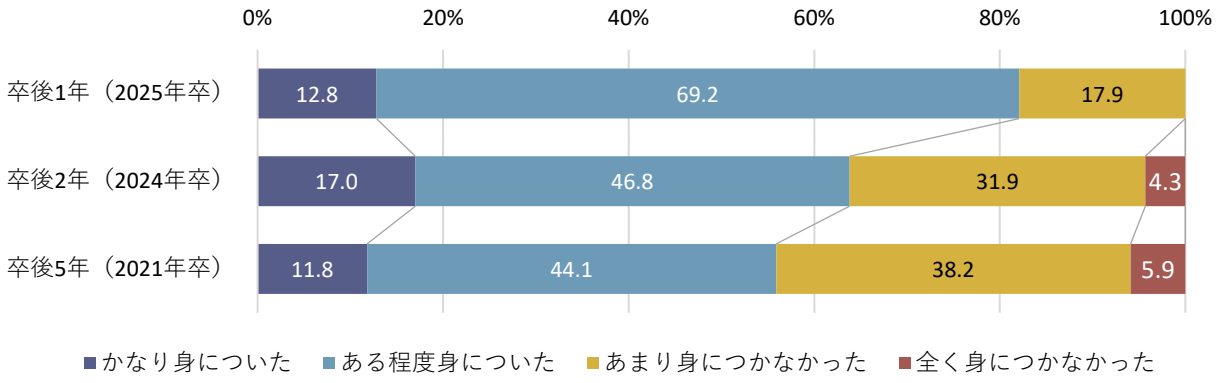
(2) 疾病や検査に関する知識



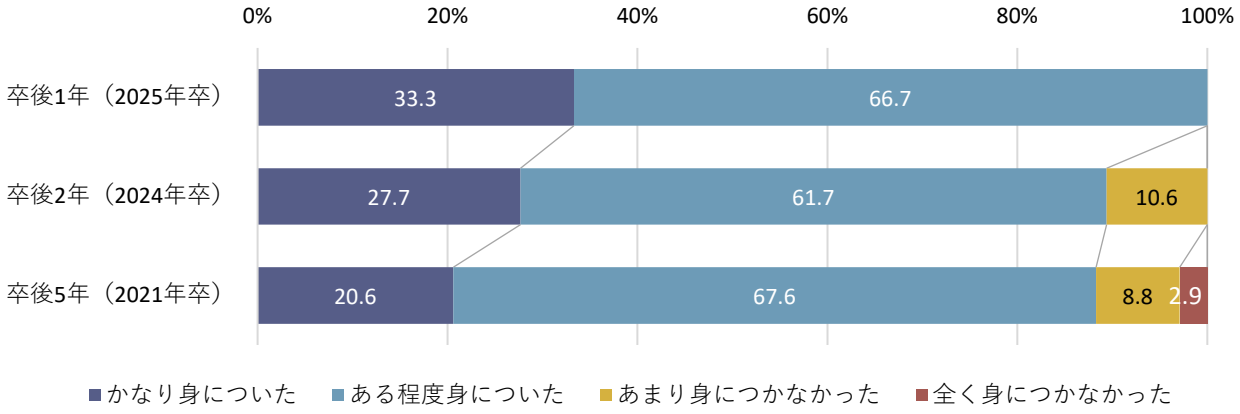
(3) 協働のための協調性



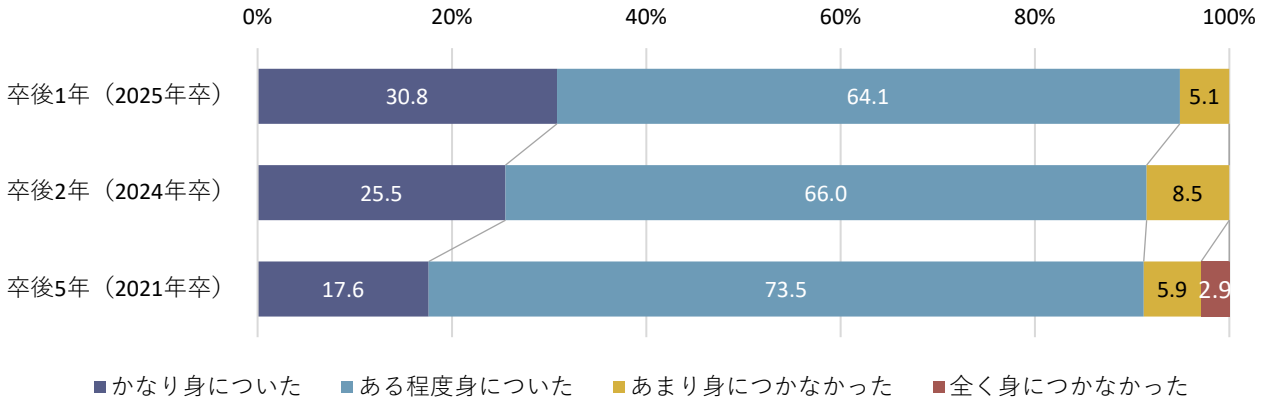
(4) 看護研究への関心



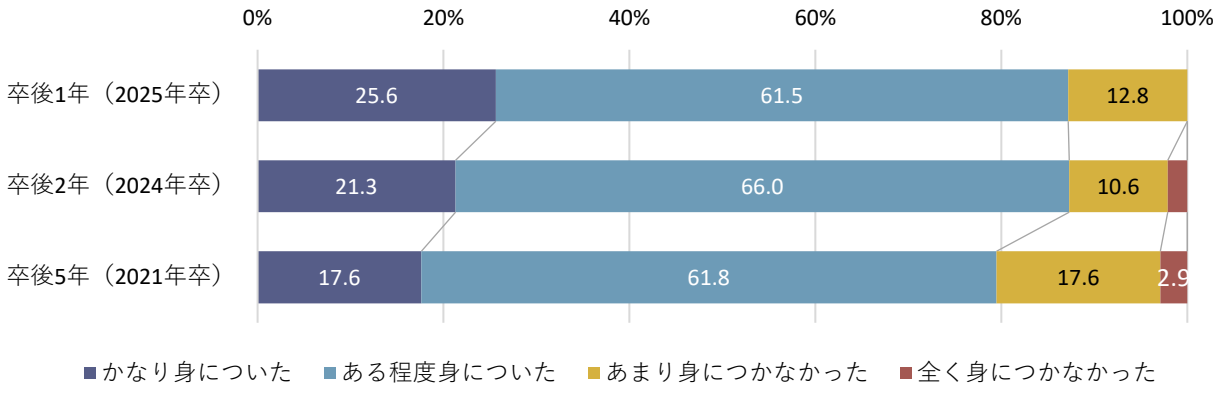
(5) ものごとの問題点をみつけ解決方法を考える能力



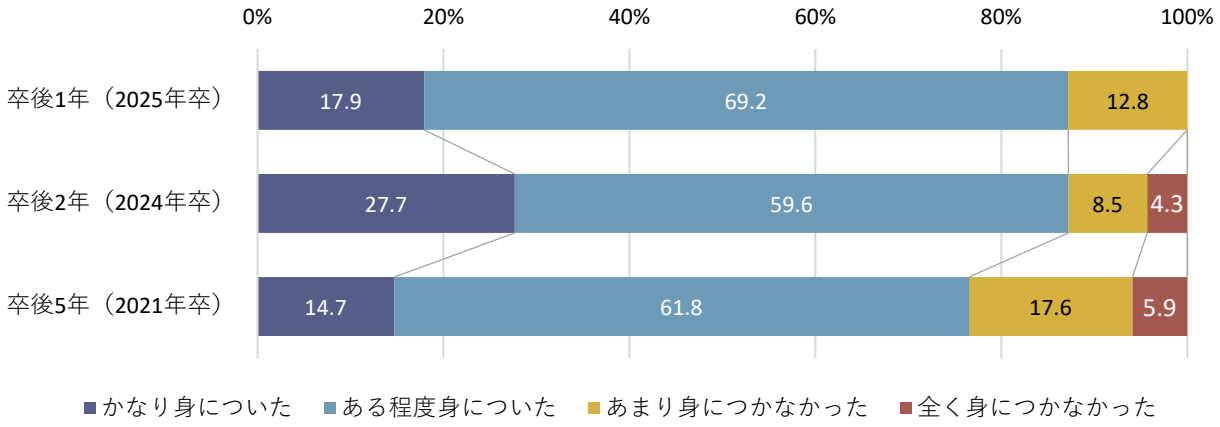
(6) 疾病予防の考え方と保健・医療制度の知識



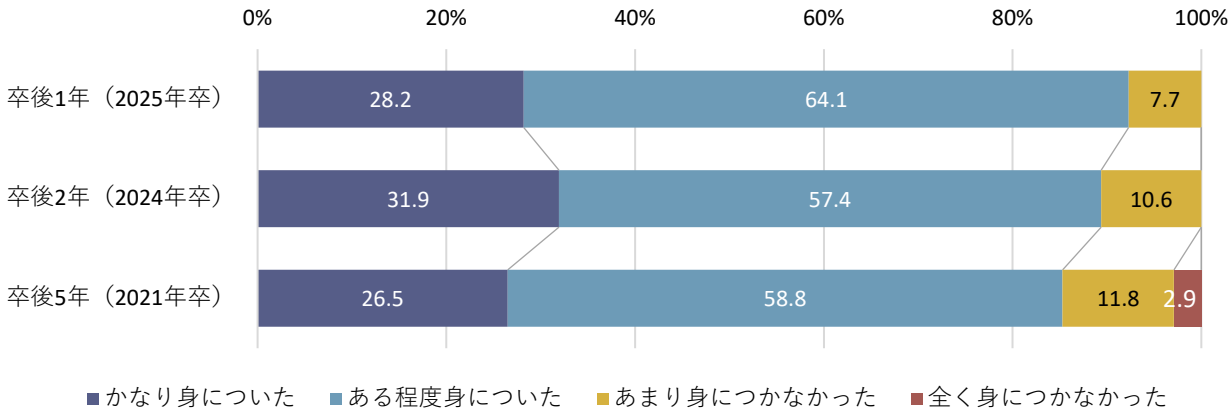
(7) 自己研鑽・自己啓発を継続的に行える学習習慣



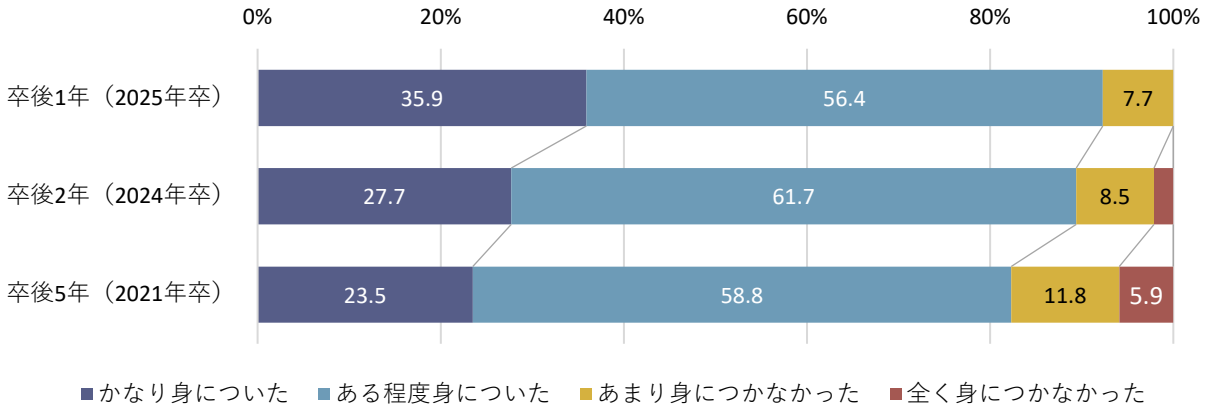
(8) 豊かな教養による社会を見る広い視野



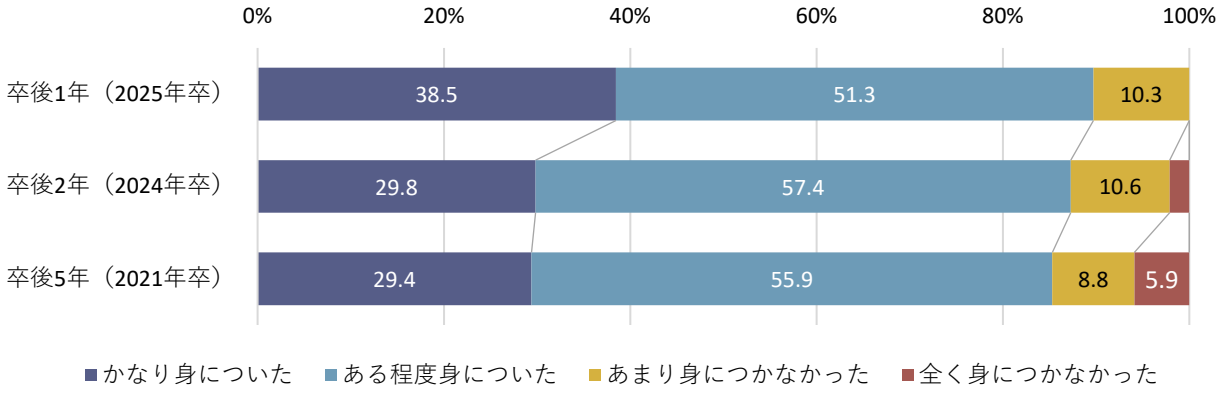
(9) 看護実践のための知識



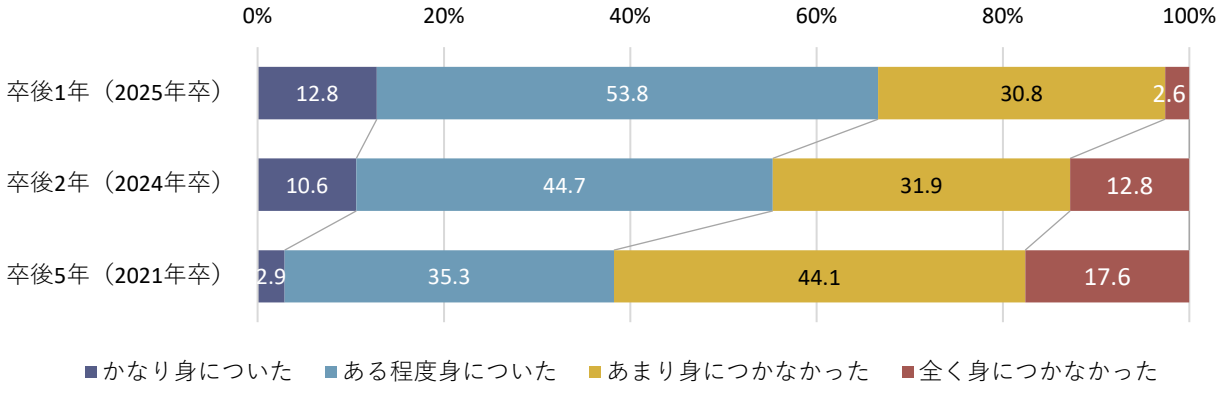
（10）豊かな人間性



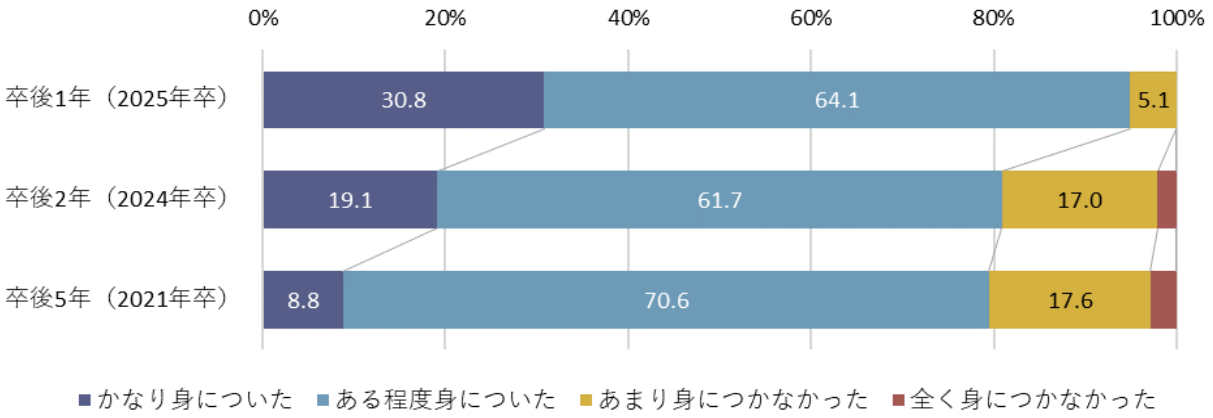
（11）コミュニケーション能力（技法）



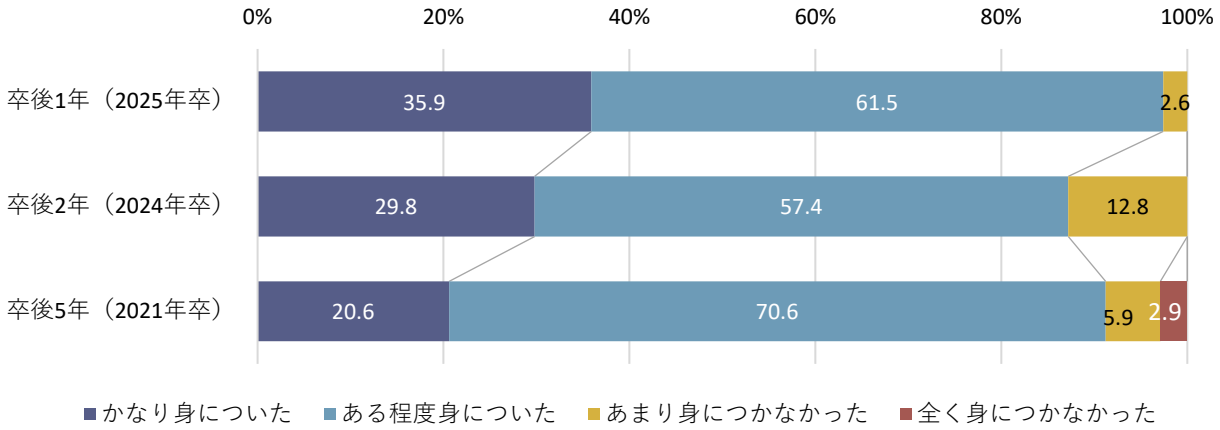
（12）語学など国際化への対応能力



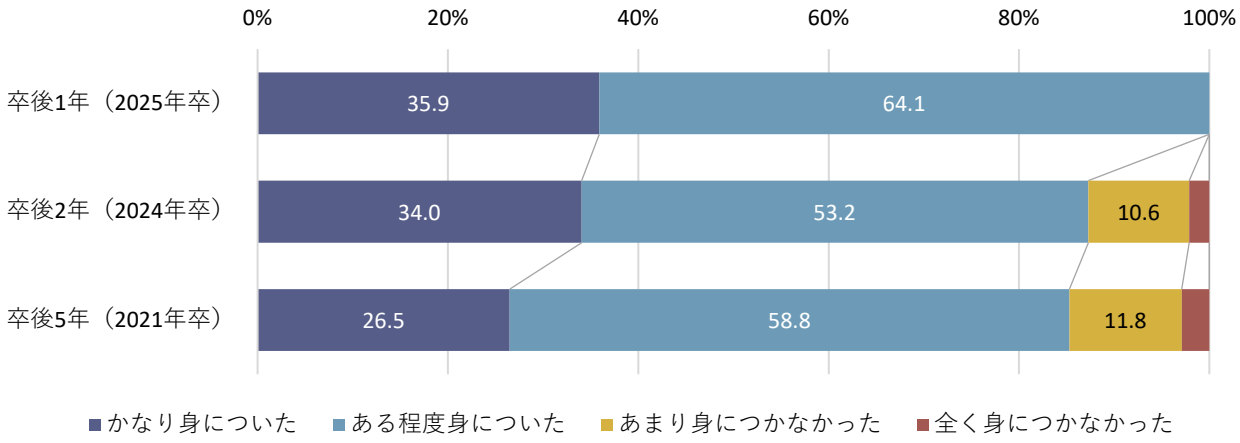
（13）論理的な思考力



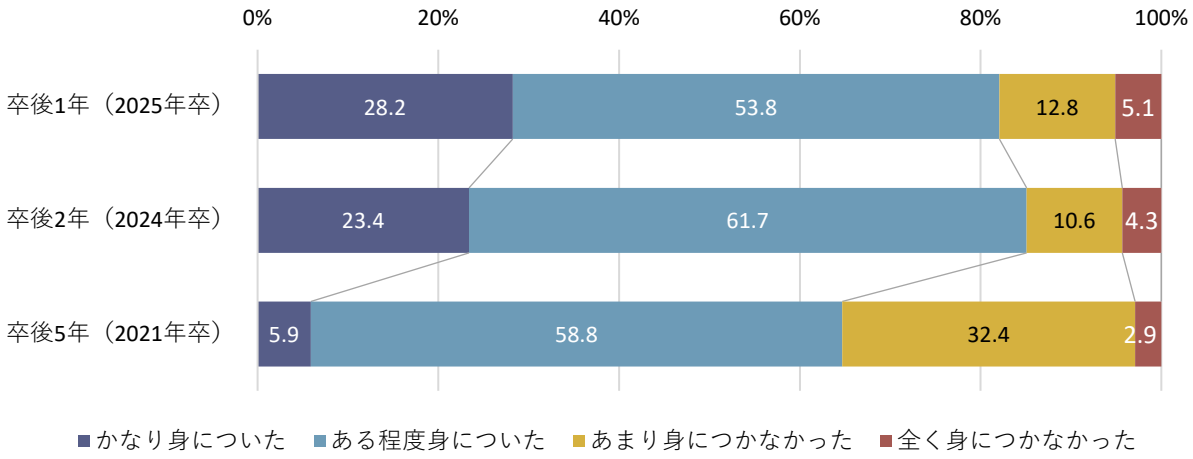
（14）医療安全についての知識



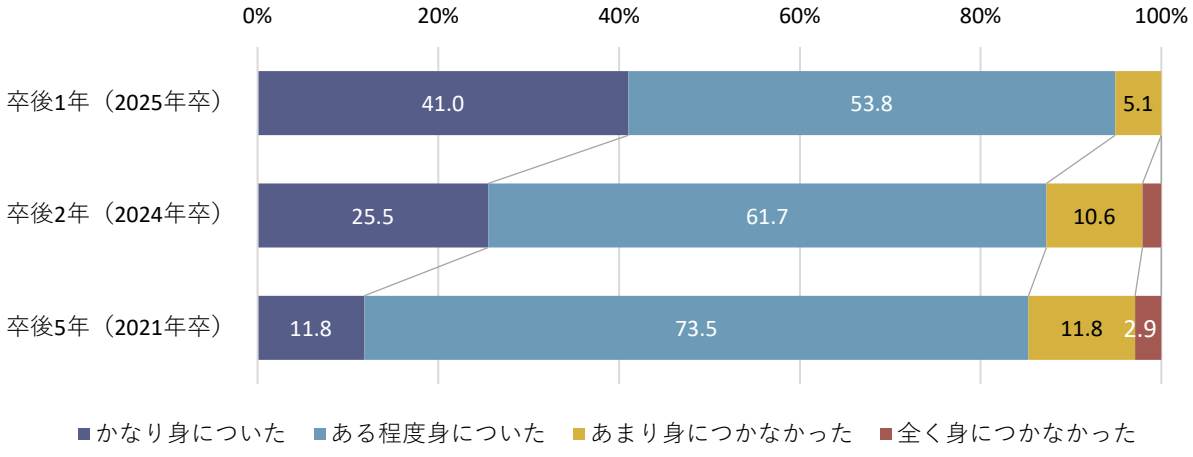
（15）礼儀・協調性・責任感などチーム医療に必要な能力



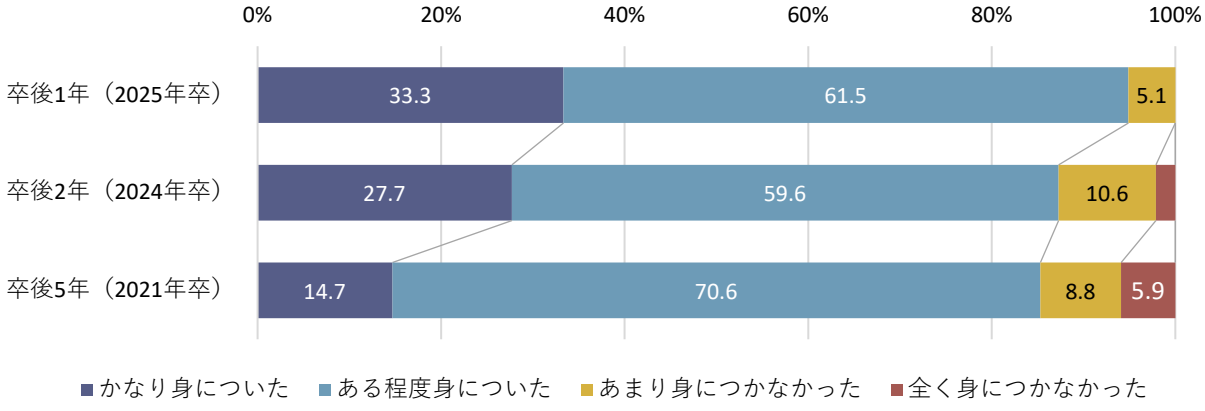
（16）IT 時代に対応した情報スキル



（17）患者・家族に対する接遇・態度の能力



（18）自分の意見を筋道立てて表現する能力



カリキュラムの満足度

Q21. 東京医科大学在学中の各カリキュラムや設備に対して、どのくらい満足していますか。

カリキュラム改編により、卒後 1 年（2025 年卒）は 2021 カリキュラム受講で、卒後 2 年・卒後 5 年は 2013 カリキュラム受講の上での満足度評価となる。

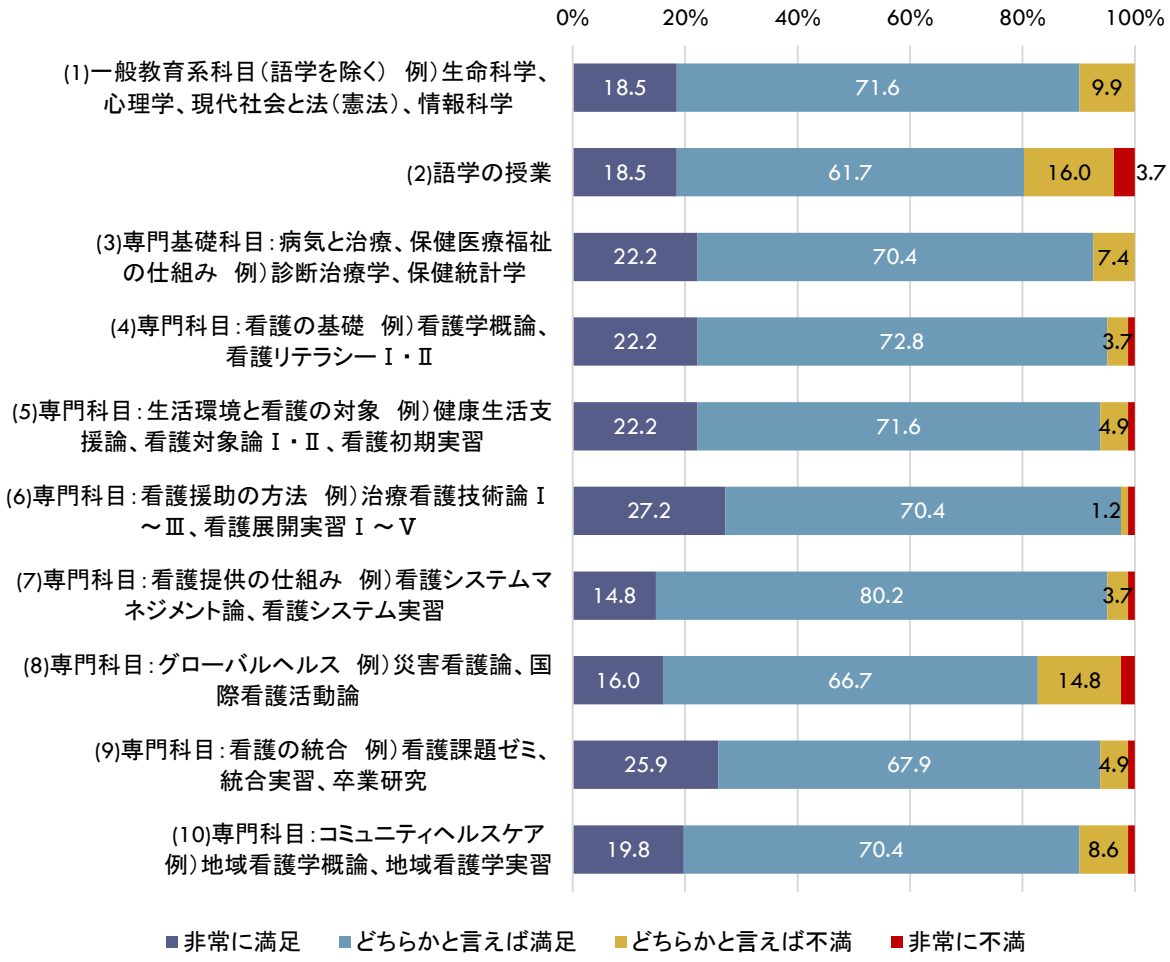
項目が類似しているため、比較のため同じ項目で分類しているが、内容に違いがあることに留意していただきたい。

【全体カリキュラム別】

カリキュラム別に満足度を分析した。全体として、満足度にカリキュラム間に大きな差は見られなかった。

2013 カリキュラム）

「満足」（「非常に満足」＋「どちらかと言えば満足」の合計）と回答した卒業生が、すべて 8 割を超えている。Q20 で「あまり身につかなかった」という回答割合が高かった（12）「語学など国際化への対応能力」であるが、カリキュラムの「語学」の満足度（「非常に満足」18.5%＋「どちらかといえば満足」61.7%）は 80.2%であった。

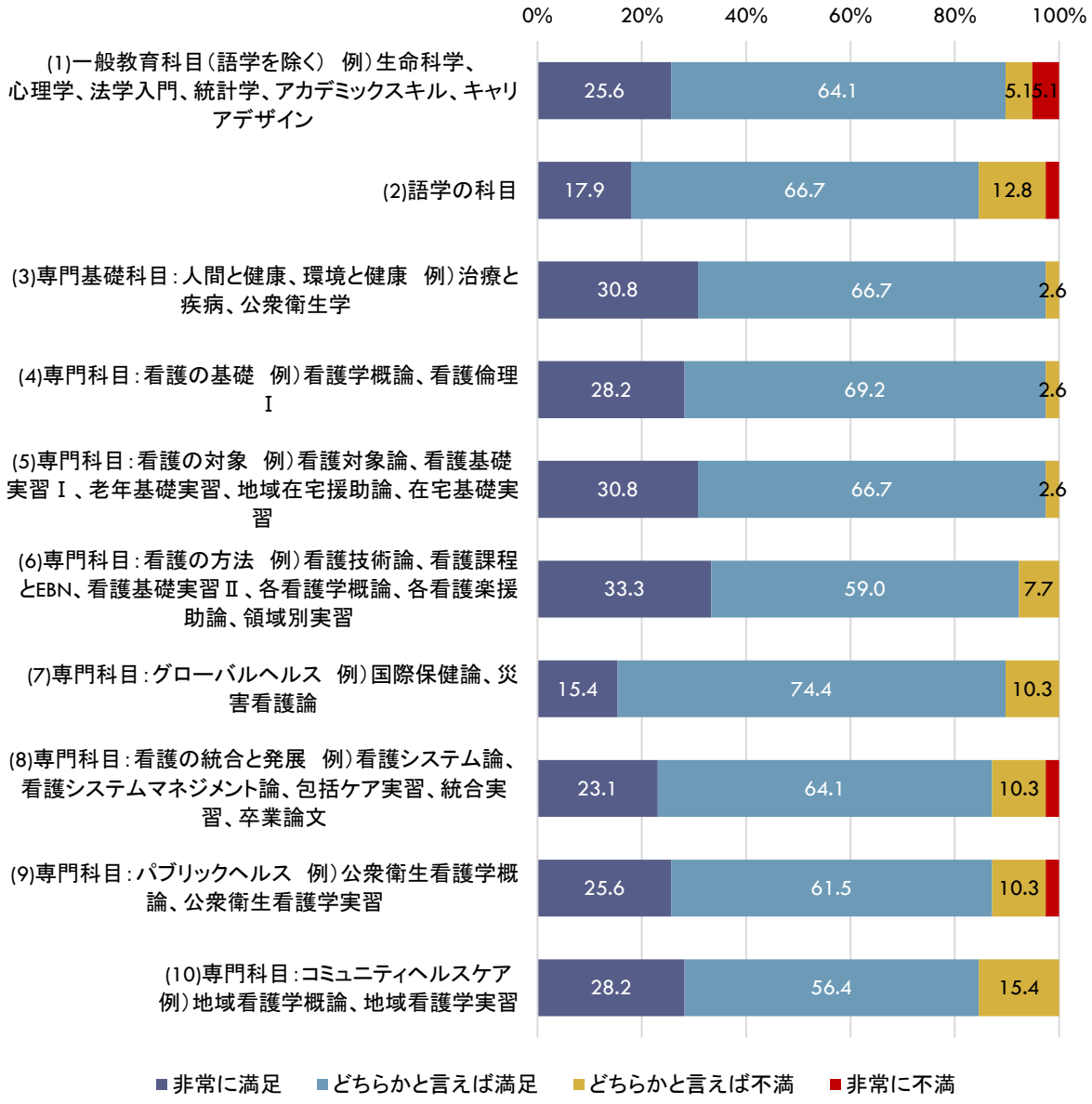


2021 カリキュラム　※2025 年度より追加

2013 カリキュラムとの大きな変更としては、(9)専門科目：パブリックヘルスの追加である。また、2013 カリキュラムの(7)専門科目：看護提供の仕組みと(9)専門科目：看護の統合が、2021 カリキュラムでは(8)専門科目：看護の統合と発展として統合編成されている。その他、各科目内においても新しく編成されている。

2013 カリキュラム同様、「満足」（「非常に満足」＋「どちらかと言えば満足」の合計）と回答した卒業生が、すべて 8 割を超えている。「非常に満足」が 30%を超えたのは、(3)専門基礎科目・(5)専門科目：看護の対象・(6)専門科目：グローバルヘルスであった。

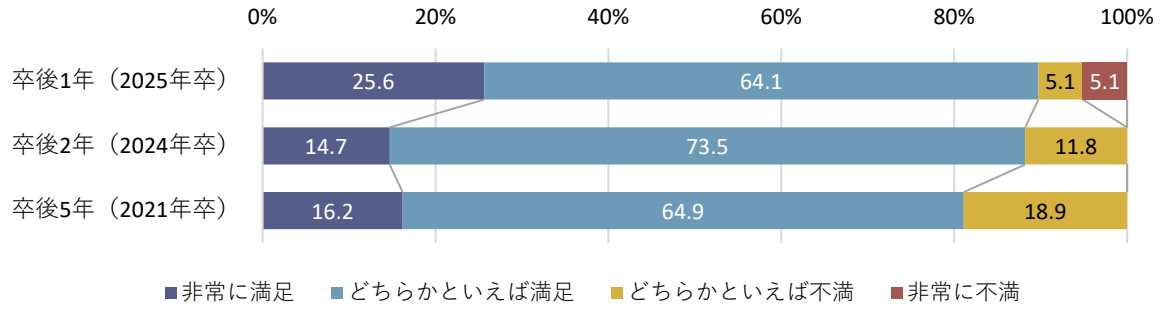
一方で「不満」と回答した割合が最も高かったのは、（2）語学と（10）コミュニティヘルスケアであった。また「非常に不満」と回答した割合が高かったのは、（1）一般教育科目（語学を除く）であった。



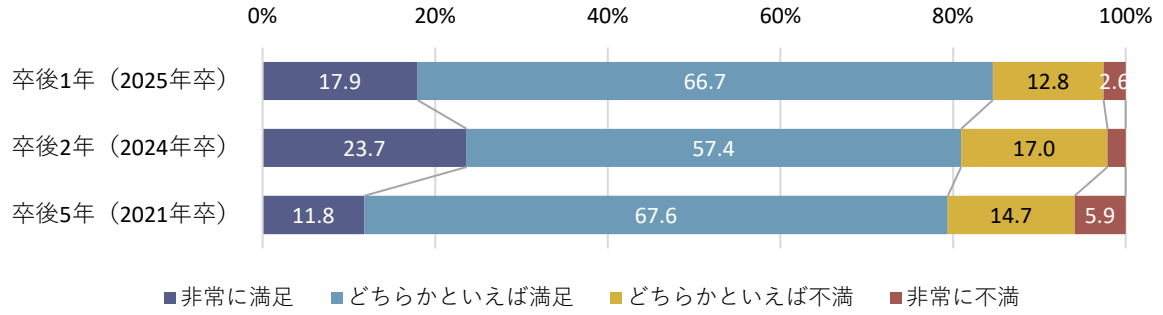
以下、カリキュラムの内容ごとに、卒業年ごとの結果を示す。2021 カリキュラムと 2023 カリキュラムでは、編成による相違があるため、比較科目が完全に一致していないものがある。

全体の中で、(2)「語学の授業」についで「不満」の割合が高かった（8)「専門科目：グローバルヘルス」であるが、卒業年別に見ると、卒後 5 年（2021 年卒）の割合がとくに高いことがわかる。

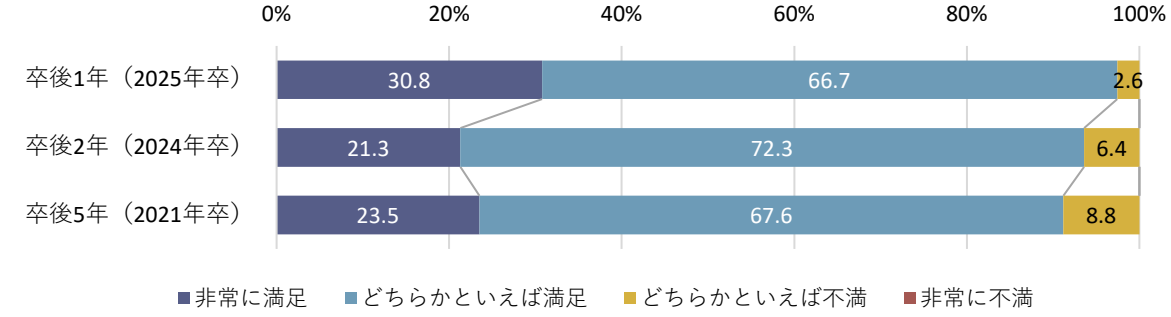
(1) 一般教育系科目（語学を除く）　例）生命科学、心理学、現代社会と法（憲法)、情報科学(2013)／一般教育科目（語学を除く）　例）生命科学、心理学、法学入門、統計学、アカデミックスキル、キャリアデザイン(2021)



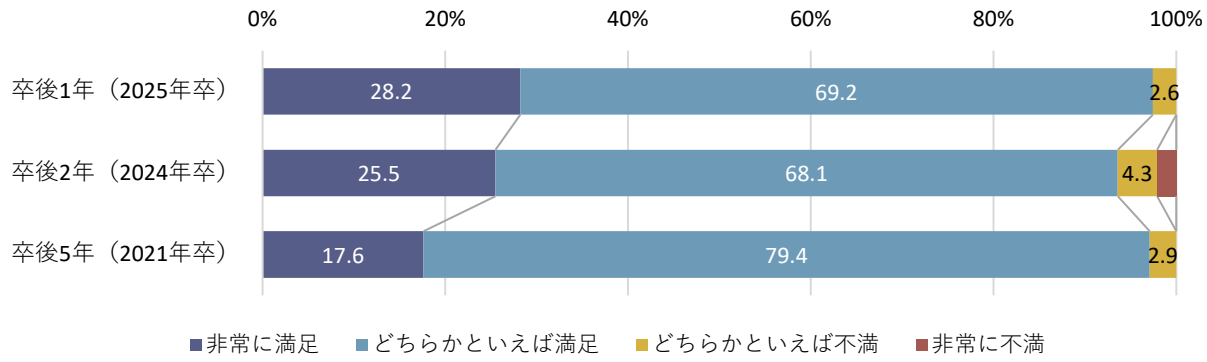
(2) 語学の授業(2013)／語学の科目(2021)



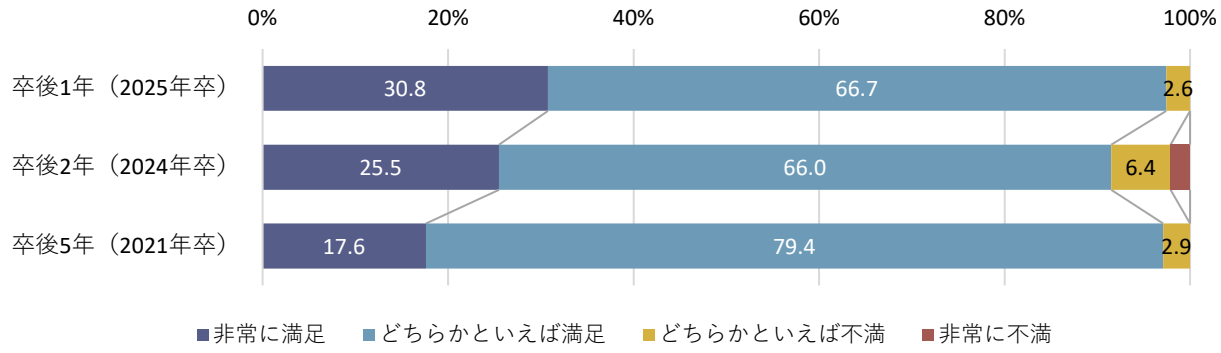
(3) 専門基礎科目：病気と治療、保健医療福祉の仕組み　例）診断治療学、保健統計学(2013)／専門基礎科目：人間と健康、環境と健康　例）治療と疾病、公衆衛生学(2021)



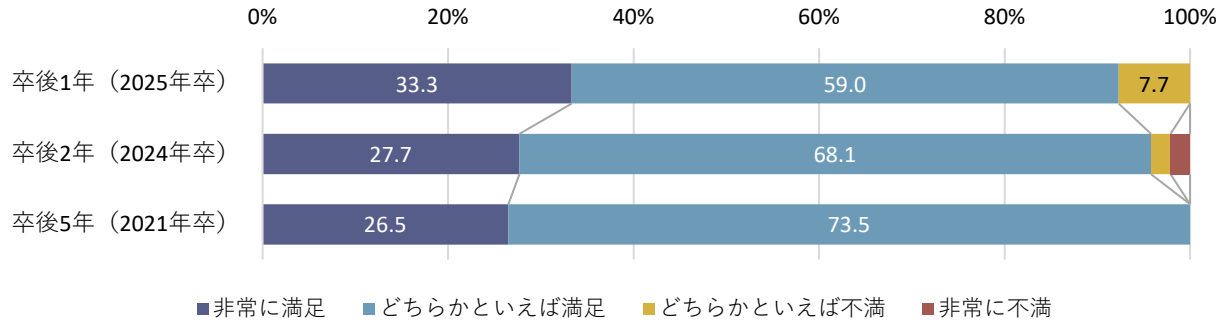
（4）専門科目：看護の基礎　例）看護学概論、看護リテラシーI・II(2013)
／専門科目：看護の基礎　例）看護学概論、看護倫理I(2021)



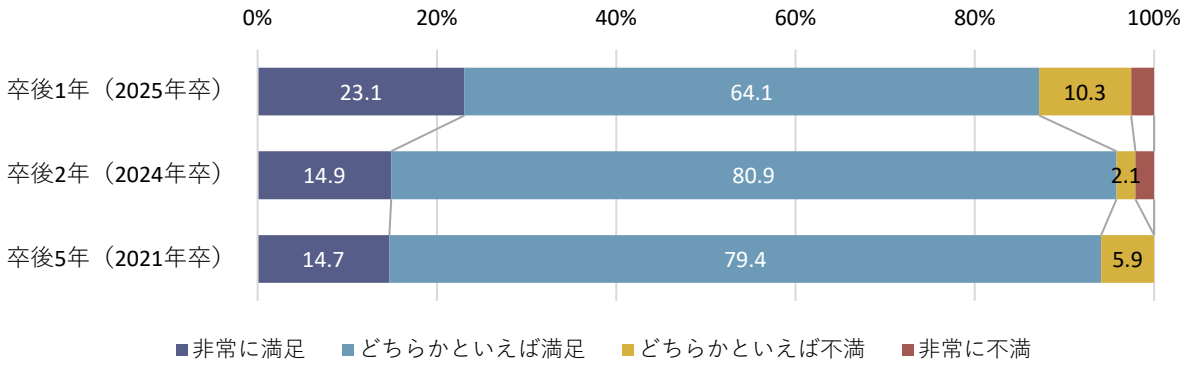
（5）専門科目：生活環境と看護の対象　例）健康生活支援論、看護対象論I・II、看護初期実習(2013)
／専門科目：看護の対象　例）看護対象論、看護基礎実習I、老年基礎実習、地域在宅援助論、在宅基礎実習(2021)



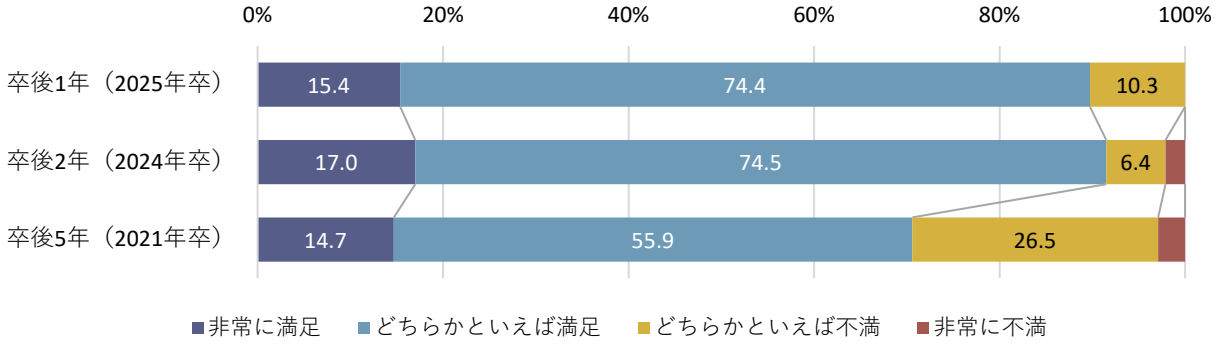
（6）専門科目：看護援助の方法　例）治療看護技術論I～III、看護展開実習I～V(2013)
／専門科目：看護の方法　例）看護技術論、看護課程と EBN、看護基礎実習II、各看護学概論、各看護楽援助論、領域別実習(2021)



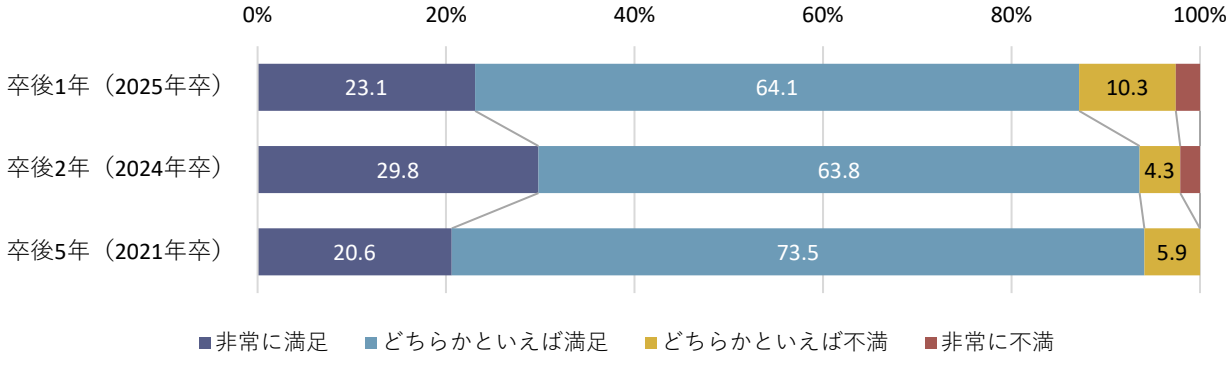
（7）専門科目：看護提供の仕組み　例）看護システムマネジメント論、看護システム実習(2013)
／（8）専門科目：看護の統合と発展　例）看護システム論、看護システムマネジメント論、包括ケア実習、統合実習、卒業論文(2021)



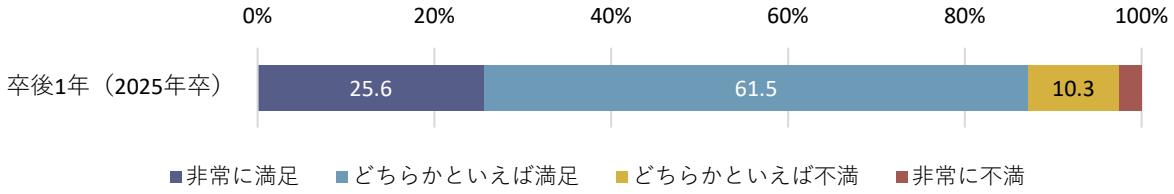
（8）専門科目：グローバルヘルス　例）災害看護論、国際看護活動論(2013)
／専門科目：グローバルヘルス　例）国際保健論、災害看護論(2021)



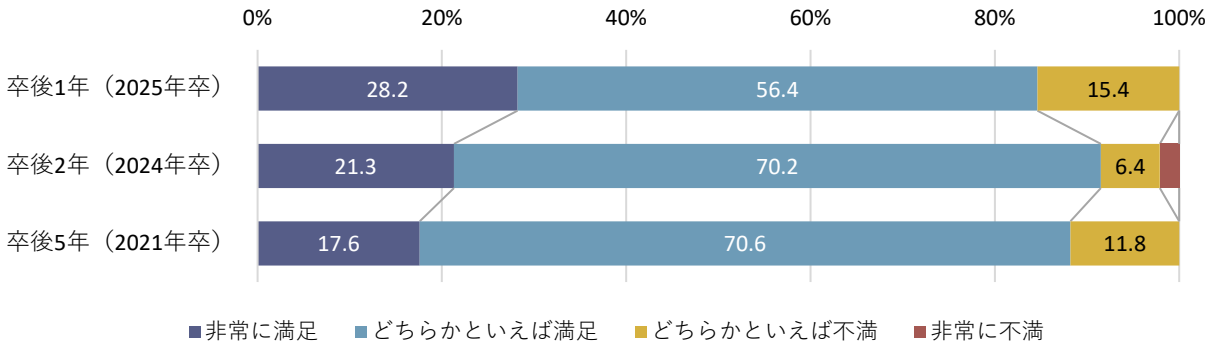
（9）専門科目：看護の統合　例）看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究(2013)
／（8）専門科目：看護の統合と発展　例）看護システム論、看護システムマネジメント論、包括ケア実習、統合実習、卒業論文(2021)



（9）専門科目：パブリックヘルス　例）公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学実習（2021 のみ）



（10）専門科目：コミュニティヘルスケア　例）地域看護学概論、地域看護学実習（2013/2021 共通）



Q21-2. そのほか、カリキュラムや科目についてご意見があれば聞かせてください。

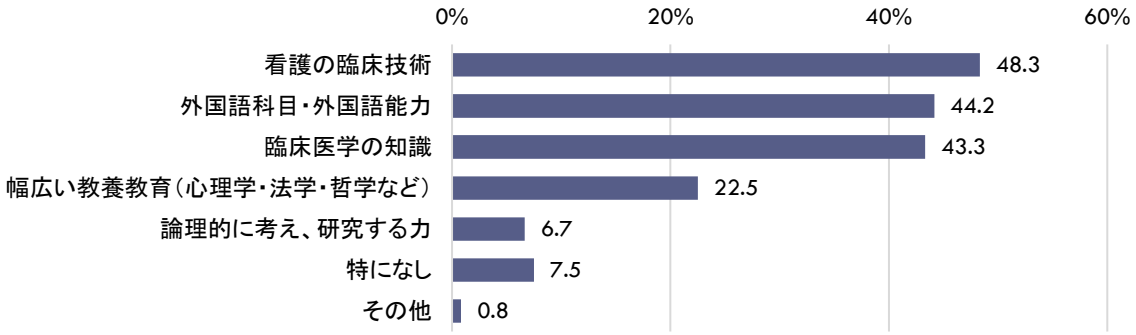
- 第二外国語を取れたのが他の学校にはないのでよかったです。
- 看護技術は職場で身につくので臨床医学知識と教養系をもう少し学習すべきだった
- 公衆衛生系の科目は選択科目なのに必要単位数取得のために選ばざるをえない状況だった。
- 採血などの実践で使える授業が少なかった
- 統合実習ではゼミに関連する部署で実習をしたかった。
- 領域別実習のスケジュールがとにかく過密で、休息が十分に取れない日が続きました。
- 在学中、保健師の資格取得にも関心はあったが、7 月に実施される保健師コースの 1 か月間の実習が、進学試験準備時期と重なっていた。そのため、進学試験直前の学習や準備を優先せざるを得ず、結果として保健師資格の取得を目指すことができなかった。 現在進学し、看護師と保健師の両資格を全員が取得している大学出身の同期と共に学ぶ中で、自身も保健師資格を取得しておきたかったという思いを感じるようになった。また、地域で活動する助産師の話を聞く機会を通して、保健師資格も併せ持つことで、ライフステージに応じて専門性を活かしながら幅広く活動できることを実感した。 今後、改めて進学して保健師資格の取得を目指すことも考えられるが、すでに修士を修了予定があることを踏まえると、学部 4 年間のうちに取得しておいた方が、時間的・経済的負担の面でも合理的であったと感じている。こうした経験から、進学を希望する学生にも配慮し、保健師コースの授業日程や実習期間について、より柔軟な設定が検討されるとよいのではないかと考える。

Q22. 在学中にもっと学んでおけば良かった、身につけておけば良かったことはどのようなことですか。（複数選択）

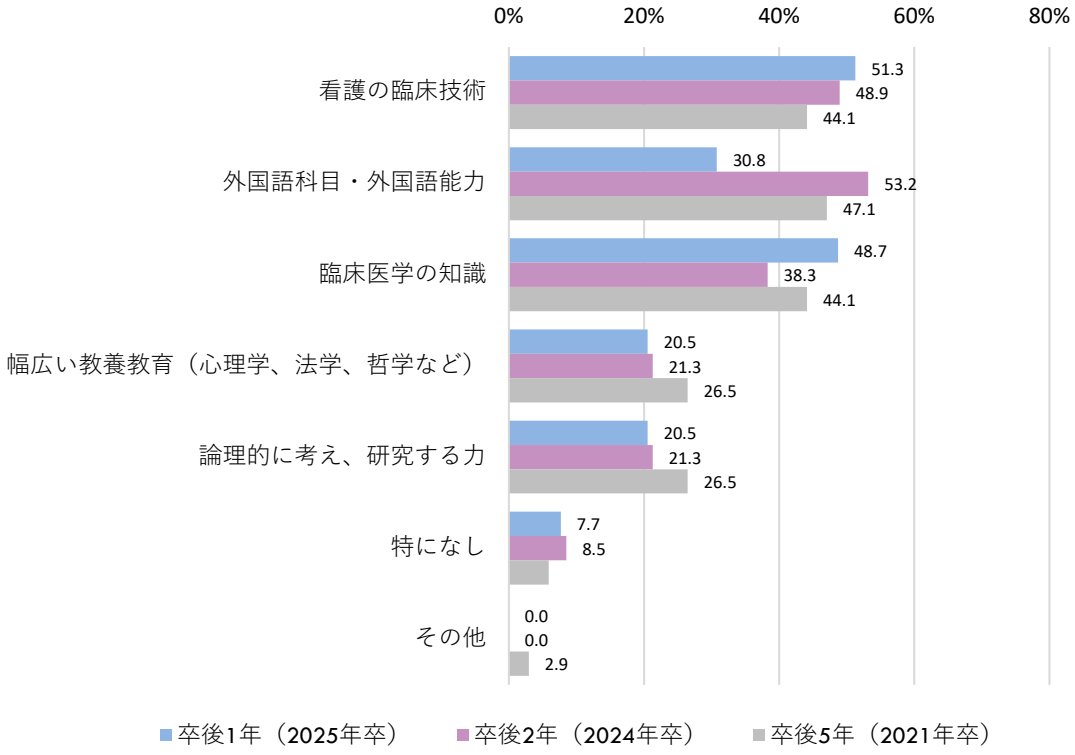
全体では、最も割合が高いのが「看護の臨床技術」であり、次いで、「外国語科目・外国語能力」、「臨床医学の知識」であった。（2023 年度では、「外国語科目・外国語能力」が最も高かった）

卒業年別に見ると、卒後 1 年・卒後 2 年では、「看護の臨床技術」「臨床医学の知識」（実践的分野）をもっと学んでおけば良かった・身につけておけば良かったと感じている者が多いが、卒後 5 年では「幅広い教養心理」や「論理的に考え、研究する力」を選ぶ者が多くなることがわかる。

【全体】



【卒業年別】



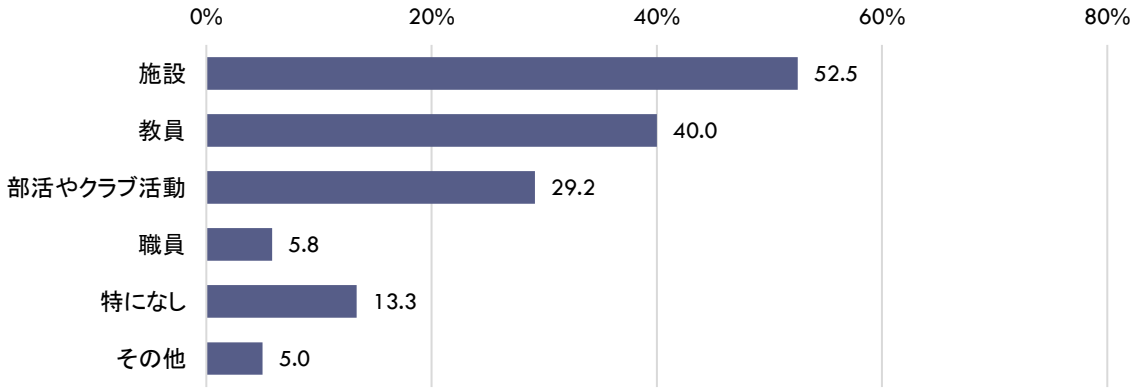
「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）：

・多重課題をこなす力をつけたかった。

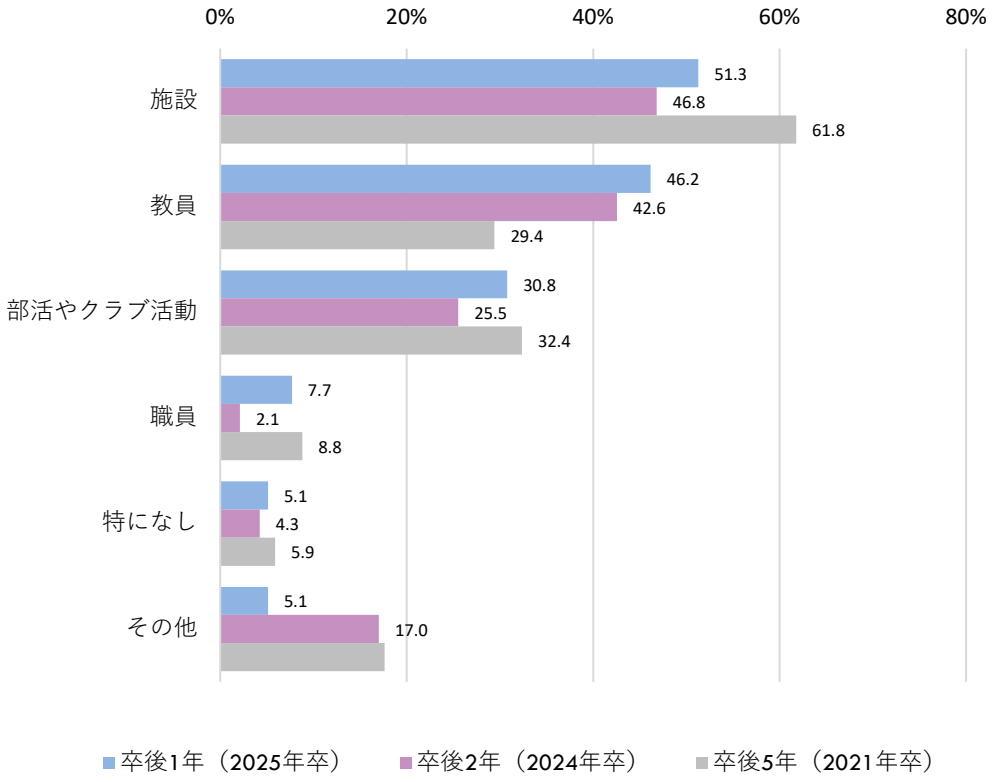
Q23. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、良かったと思う点について教えてください。（複数選択）

全体としては、良かったと思う者の割合が高い順に、「施設」、「教員」、「部活やクラブ活動」であった。特に「施設」は全体の 52.5%と半数を超えた。教員は 40.0%が良かったと回答したが、卒業年別でみると、卒後 5 年（2025 年卒）の回答が 29.4%となっており、他の年度より低い。

【全体】



【卒業年別】



「施設」について良かったと思う点（具体的に）

●学内環境：清潔・綺麗さ
・　綺麗（2）
・　看護学科棟が綺麗だった
・　校内が綺麗、特にトイレ
・　施設が綺麗だった
・　病院が綺麗
・　綺麗で学びやすい環境であった
・　綺麗で清掃が入っていた
●シミュレーション設備・教育
・　シミュレーションができる点
・　シミュレーションをたくさんできて良かった もっと授業でやりたかった
・　シュミレーションルームに様々な機器が揃っていること
・　シミュレーションによる授業があったこと 実際に臨床に近い環境で学ぶことができた
・　コロナ禍で実習ができない時もあったが実際の病室のような場所で模擬実習ができた点
・　シミュレーション教育の設備はすごく良かったと思います。模型などもリアルでしたし、臨床に沿っていたと思います。
●実習環境・実習施設
・　実際の大学病院で実習できる
・　実習室や機材などが充実していたと思う
・　実習前にしっかり準備できる環境だった
・　実習病院が新病院になってからは旧病院の時より実習中も気持ちが明るく過ごせた
・　病院も新しく建て替わったばかりで綺麗な場所で勉強、実習できたのはすごく嬉しかった
●学習環境
・　テスト勉強や技術練習をする環境が整っていた
・　大学病院（西新宿）隣接の図書館は、学習に最適な環境が揃っていました
●立地・附属病院
・　立地、附属病院での実習
・　立地が良かった

「教員」について良かったと思う点（具体的に）

●接し方・態度
・　熱心だった
・　話しやすかったです。
・　教員と学生の距離感が近かったこと。

・　寄り添って教えてくれるところ。
・　親身に話を聞いてくれたこと
・　親身に話を聞いてくれる先生が多かった。
・　いつも親身になって相談に乗ってくださったり、気にかけてくれた。
・　ゼミの先生が親身になって相談に乗ってくださったこと。
・　親身に相談に乗ってくれる先生方がいた。
・　親身にサポートしてくれた。根拠の大切さを教えてくれた。最新の機器を使って教えてくれた。
・　担任制度でゼミの先生が親身に相談に乗ってくれたのが良かったです
・　相談しやすく、多忙の中でもしっかり話し合いの時間をとってくださる方が多かった印象です。
・　とても話しやすく休学中も連絡を頂いたり、とても親身になってくださる先生達ばかりでありがたかったです。
・　学生の顔と名前を覚えてくださっている教員が多くコミュニケーションが取りやすかったです。
・　距離が近くて相談しやすかった
・　良い意味で距離が近く、相談しやすかった。
・　こちらの相談に対し、常に迅速にレスポンスしてくださり、本当に助かりました。

●学習・進路支援・サポート

・　手厚いサポート体制
・　学習や進路の相談に乗ってくれた事
・　担任の先生やゼミ担当の先生が卒業後の進路についても親身に相談にのってくださるため
・　保健師の公務員試験対策の際に、何度も時間を作っていただき様々な指導をしていただけたこと。
・　4 年生の時のゼミの先生がとても真摯に教えてくださり、今の看護師としての根底にあります。

「職員」について良かったと思う点（具体的に）

・　健康サポートセンターの皆様に、親切にしていただきました。
・　少ない人数でありながら学務科の人たちはいつも丁寧に対応してくれたのを覚えています（看護学科）

「部活やクラブ活動」について良かったと思う点（具体的に）

●人との交流、繋がり

・　幅広い方との交流ができた
・　職種を超えて仲間ができ、卒業してからも関わりがある。
・　先輩後輩と仲良くなれた。
・　医学科看護学科ともにできたこと
・　交友関係が広がった 今でも関係があり良かった
・　交流が多くて楽しかった。

・　医学科との繋がりができて、大学生活がより豊かになったから。
・　部活種類が豊富である程度活動もあり、充実していたと思う。
・　部活をすることで医学部との交流が増えた
・　他学年、他学科の生徒と関わることで卒業後も職場で協働することができている。

●その他

・　雰囲気
・　楽しかった
・　コロナ後にすぐ活動を再開できた。
・　勉強と両立して楽しんでできた。
・　部活動は活発に行なっていたと思います。

「その他」、看護学科を振り返ってよかったと思う点（具体的に）

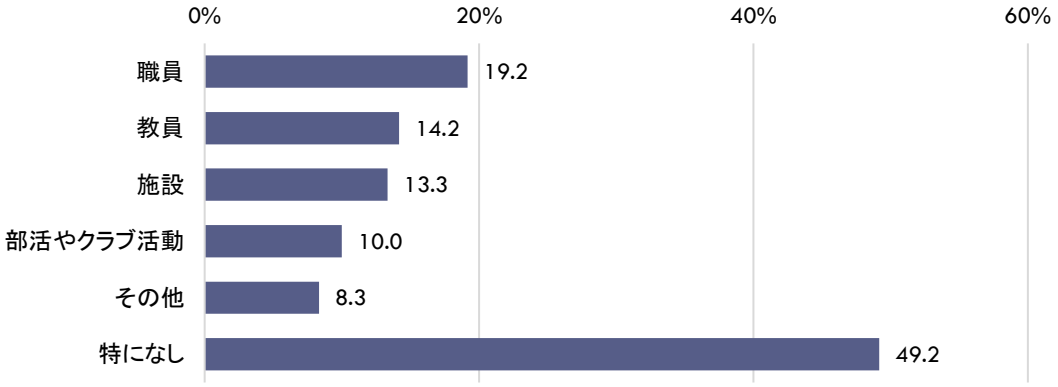
・　友達
・　友人・同期
・　オンデマンド
・　実習する上で立地がいい

Q24. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、改善すべきと思う点について教えてください。（複数選択）

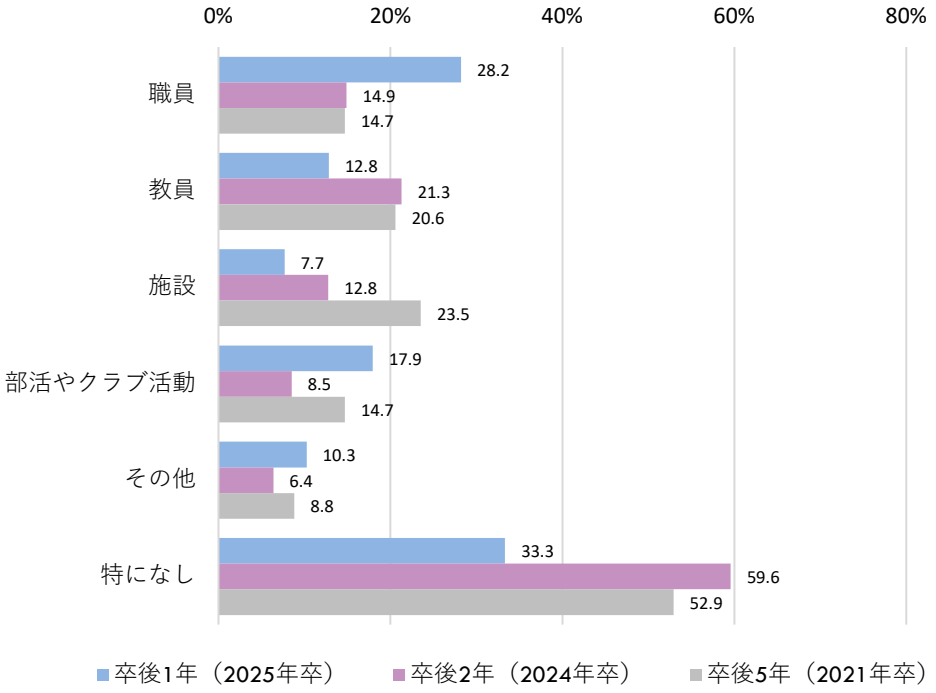
全体では約半数（49.2%）が、「特になし」と回答した。改善すべきと思う点の割合は、高い順に「職員」、「教員」、「施設」、「部活動やクラブ活動」という結果であった。

卒業年別でみると、2025 年卒は「職員」について改善すべきとする回答がもっとも多く（28.2%）、2024 年卒は「教員」（21.3%）、2021 年卒は「施設」（23.5%）についてが多かった。

【全体】



【卒業年別】



「施設」についての改善点（具体的に）

- 食堂が欲しかった／再開してほしかった（3）
- 売店・購買（生協）がほしい（2）
- 老朽化激しい
- 学生が使えるスペースが少ない。教室と食堂でしかゆっくり話すことができない。
- 学生は学内のエレベーターを使用できないことに対し疑問がありました。
- 教員は使えるが学生はエレベーターが使えないこと。 コロナ禍で学校をほぼ使わなかったのに施設費は取られたこと。
- 看護の敷地が狭い、勉強スペースが少ないロッカーまで遠すぎる
- 西新宿キャンパスの自習室を看護科も使えるようにしてほしかった。1．2 月の国家試験が近づいて来た時に、御苑キャンパスは入試で入れないことが多く、友人と勉強する時の勉強場所に困まったことがありました。

「教員」についての改善点（具体的に）

- 教え方
- 寄り添いがない
- 日常生活についての指導が多い。
- 教員の中にも個性的で学びが得られにくいと感じる人がいた。
- 演習の際に髪の毛が明るいと怒られたこと。髪の毛が明るいといけない理由がわからない。
- 特定教員の不仲が露呈していた点。授業という授業が少なかった気がする。独学と変わらないのではないかと思える授業もあった。ただ教科書を読むだけなど、頭を使わない授業が多々あった。
- 優しさがない教員が多い印象。男性の先生は優しい人が多い。

「職員」についての改善点（具体的に）

- 通知が遅い
- 学務課の対応
- 事務員の対応がひどかった
- 少し怖い態度の職員がいた
- 学務課の対応が遅いことがあった。
- 事務の人の対応が良くない人もいた。
- 学務課の方の対応が冷たく、相談しずらい環境であった。
- 一部の事務の方が常に高圧的。対応がずさんなこともあった。
- 学生センターの職員の対応が冷たい。
- 無愛想な職員がいて嫌な気持ちになることがあった。

- 学務課へ行った際に声をかけたら無言で学科と名前を伝えてくださいとかかれたパネルを指さされて感じ悪いと感じた。声をかけたあとも全然対応して貰えないこともあった。
- 事務さんの対応、言葉遣いが悪いなと思う点が何度かありました。
- 事務職の対応が遅かった。もう少し早く言ってほしい！と思うこともしばしばあった。 対応ももう少し早くしていただけると助かった。
- 書類の提出等で出向いて声をかけても無視されることや自分の担当ではないのでと一喝されその後担当者に繋いでもらえないということが多々あった。

「部活」についての改善点（具体的に）

- コロナで活動できなかった（2）
- サークルがない。女性が加入できない部活がある。
- もっと活性化してほしい

「その他」看護学科を振り返って、改善すべきと思う点（具体的に）

- 交通費が全額出ない。
- 看護棟に電子レンジない
- 多職種との関わりを学生のうちからもっと行うべきだと思う。
- 連絡事項のタイミングがすごく遅かった印象です。
- もう少し選択授業(医療系のもっと個別の分野)興味のある分野も学びたかった。
- 学食や喫茶室がなく、友人と談話する際には、いつも飲み物を調達する手間が発生しました。
- 国家試験対策が少し不足していたのでもう少し外部講師や内部講座を増やして欲しかった
- 実習の際、こちらの力不足もあるが学生に対して病院で怒鳴る看護師がいたこと。
- 休学中の学費が辛かった。個人的な理由で休学を選択する学生なら休学中も学費を支払い続けるのはわかるが、体調を崩して勉強を続けることができずやむなく休学を選択しなければならなかった身として、そして奨学金を受けながら通っていた身としては、休学による奨学金給付停止と満額の学費の支払いはとてもとても辛く、親にお願いするしかなかったため体調だけではなく精神的にもしんどい休学期間でした。

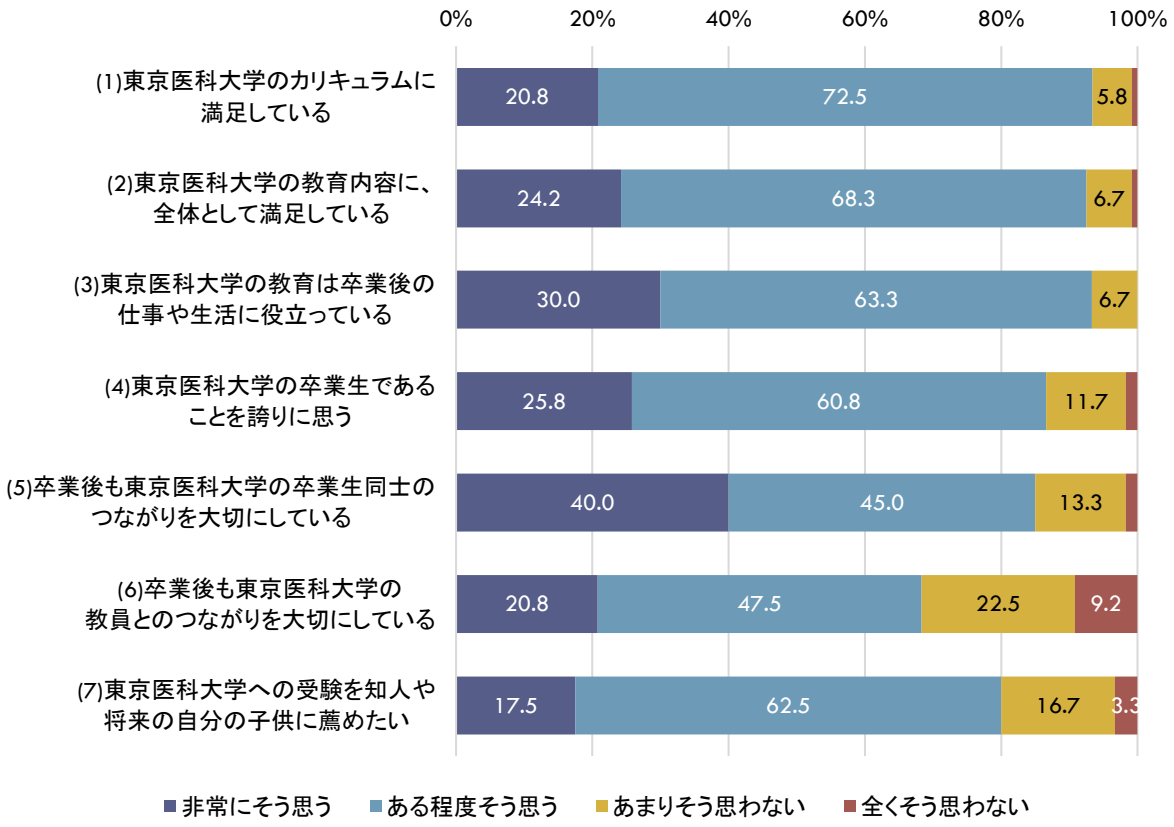
Q25. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、総合的にどのように感じていますか。

全体としては、(1)「カリキュラムに満足している」、(2)「教育内容に、全体として満足している」、(3)「教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」について、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合が 90%を超えた。

一方で、(6)「卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている」については、「思わない」(「あまりそう思わない」(22.5%) +「全くそう思わない」(9.2%)) と回答した割合が 31..7 %と、他の項目よりも高い結果となった。

卒業年別にみるとばらつきはあるものの、すべての項目において、卒業年が新しいほど「非常にそう思う」「そう思う」と回答する卒業生の割合が高くなる傾向がある。

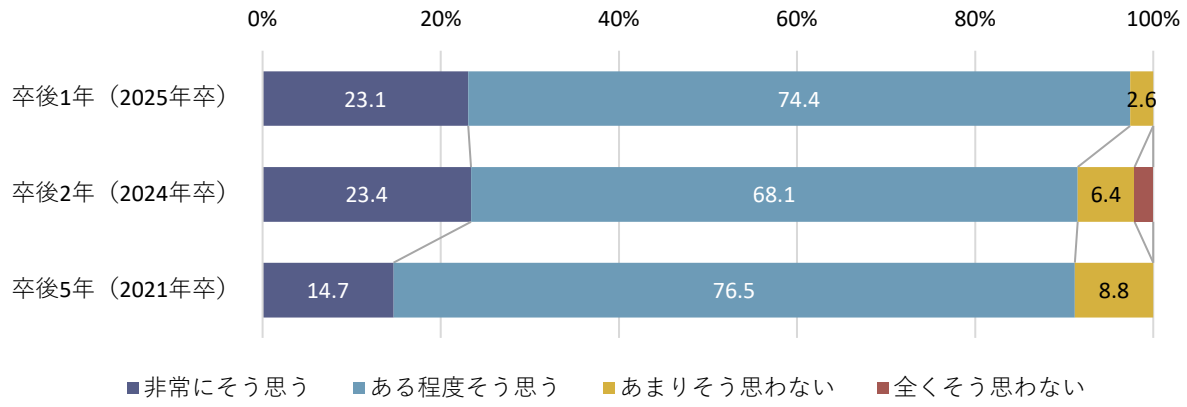
【全体】



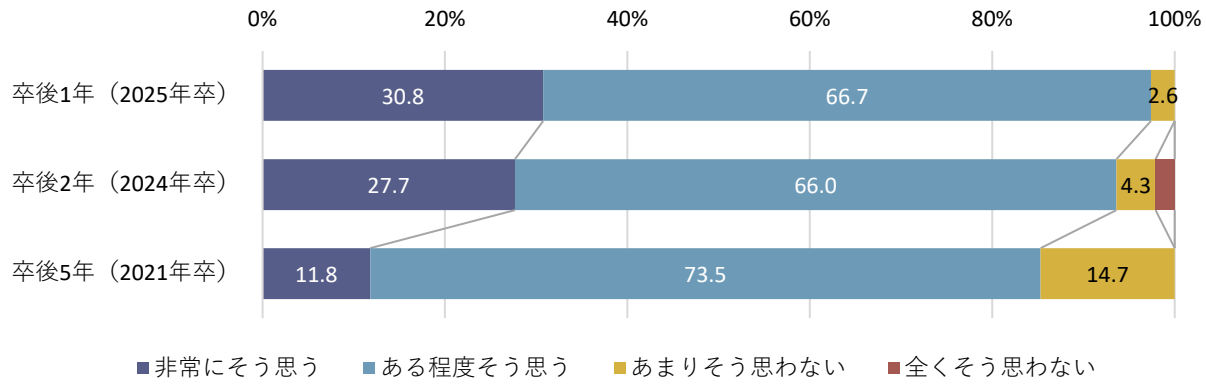
以下、項目ごと、卒業年ごとに示す。

【卒業年別】

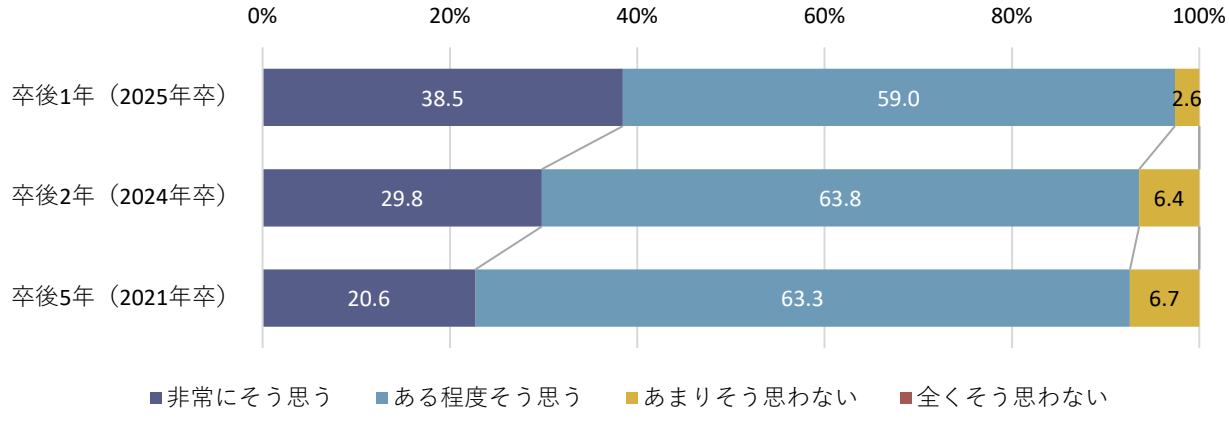
(1)東京医科大学のカリキュラムに満足している



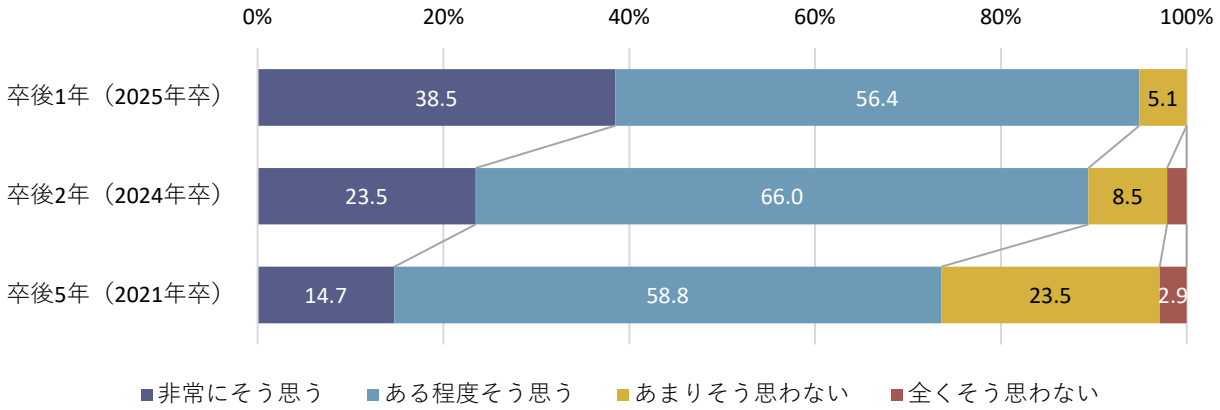
(2)東京医科大学の教育内容に、全体として満足している



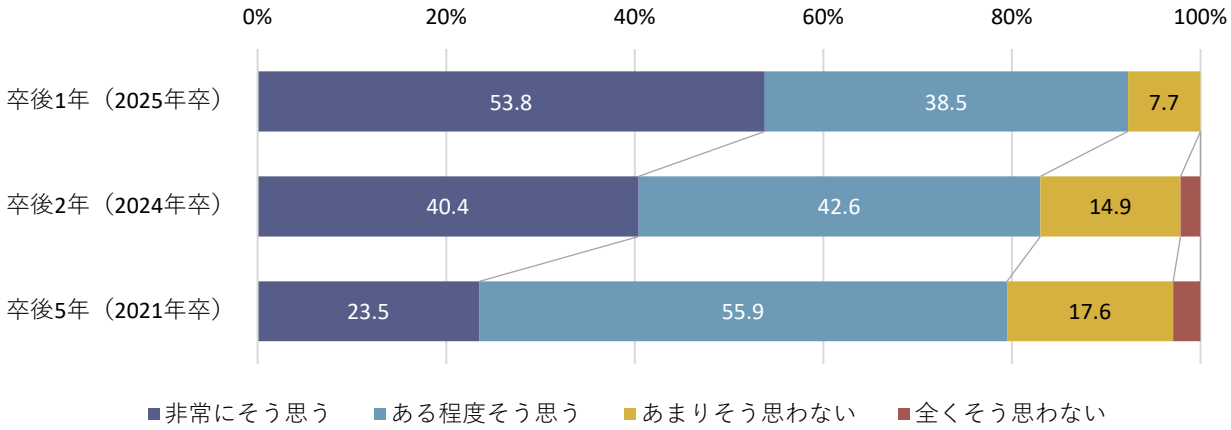
(3)東京医科大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



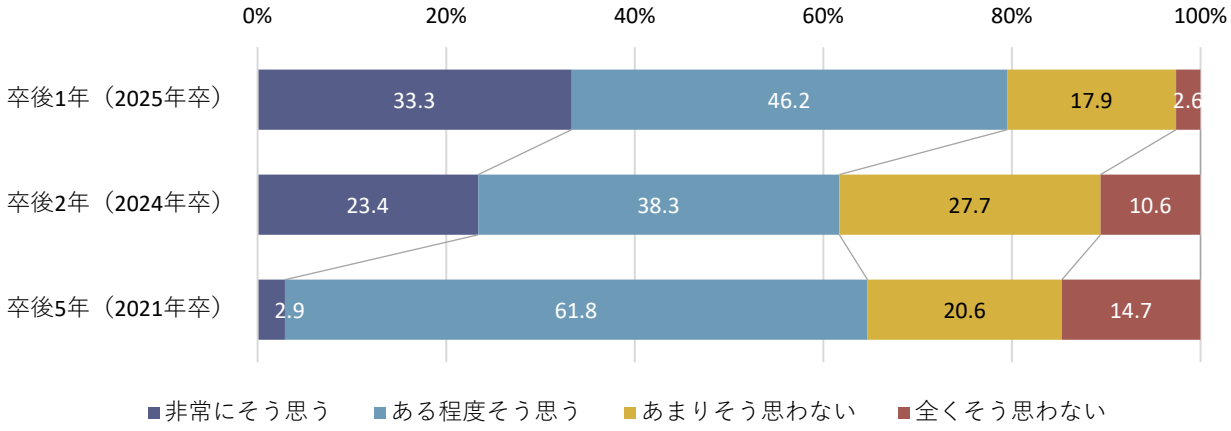
(4) 東京医科大学の卒業生であることを誇りに思う



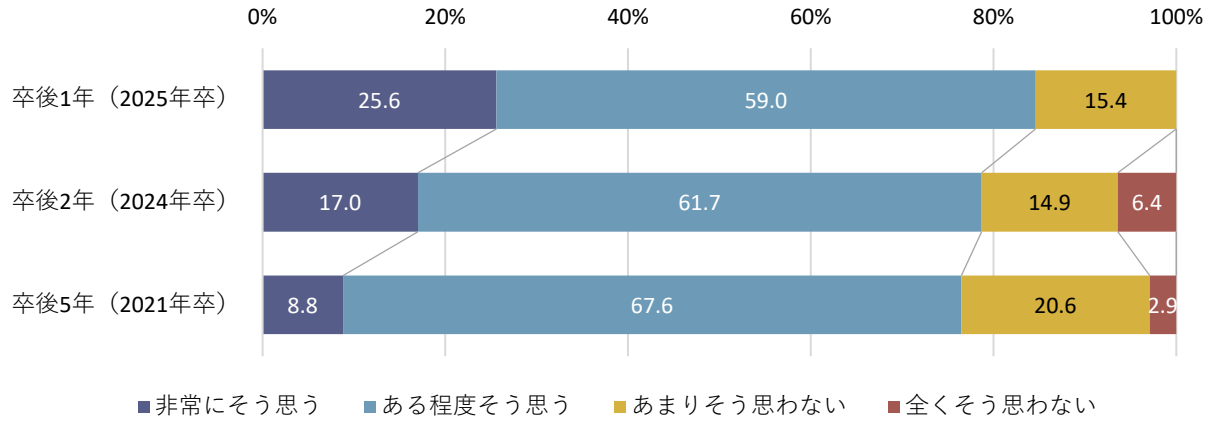
(5) 卒業後も東京医科大学の卒業生同士のつながりを大切にしている



(6) 卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている



(7)東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい



Q26. 東京医科大学の教育をより良くするためのご意見、または、東京医科大学へのご要望等を、自由にご記載ください。

- オープンキャンパスをもっと頻回に開いてほしい。
- コーチングのスキルが役に立っております。
- 自由な校風がいいと思うので活かして欲しいです。
- iPad での教科書はとてもよかったです。卒業後も役に立っているので感謝しています。
- 領域別実習のカリキュラムを見直し、学生が充分にリフレッシュして実習に臨めるよう、スケジュールを組んでいただければと存じます。

4. まとめ

本アンケートは、卒後 1 年目（2025 年卒）、卒後 2 年目（2024 年卒）、卒後 5 年目（2021 年卒）の卒業生を対象に実施したものである。卒業生からのフィードバックは教育の改善に重要である。また、これまでの調査をもとに改善された部分が、実際にどれほどの効果を得ているのかを把握するためにも貴重な指針である。前年度に引き続き、今回の回答でも、多くの忌憚のないご意見とともに叱咤激励のコメントをいただいた。調査をまとめるに当たり、忙しい合間を縫って回答してくださった卒業生の皆さまに感謝を申し上げるとともに、ご意思を反映させられるよう引き続き努めたい。

① 回答数

送付数 247 のうち 120 の回答が得られ、回収率は 48.6%であった。前年度の 56.2%を下回ったが、2023 年度は 43.2%、2022 年度は 48.3%であり、一定以上の回収率を維持しているといえる。

卒業年別の回収率を見ると、卒後 1 年（2025 年卒）が 48.8%、卒後 2 年（2024 年卒）が 51.5%、卒後 5 年（2021 年卒）が 45.3%であった。卒後年数の経過に関わらず、50%前後の卒業生に回答協力をいただいていることは、特筆すべき点である。卒業生の実態を把握するため、今後も引き続き回収率を高める方策を検討していく必要がある。

② 卒業後のキャリア

卒業直後は、全体として 90.8%が就職しており、そのうち 96.3%が看護師として勤務している。進学する者は 9.2%であった。卒業年別における東京医科大学病院（西新宿）への就職割合は 7 割で、卒後 5 年は 76.7%と特に高い。卒業直後に就職した者について、全体で 82.6%が同じ就職先で継続勤務しているが、卒業年別に見ると、卒後 2 年では 11.4%が、卒後 5 年では 43.3%が勤務していないと回答している。前年度と比較すると、同じ就職先で継続勤務している層が増加している。また、卒業直後に進学した者の職種については、64.0%が看護師、4.0%が保健師、12.0%が助産師として勤務していた。

2025 年度より、現在の勤務地を尋ねる項目が追加された。回答者 120 名のうち東京都勤務は 103 名と、全体の約 86%に及んだ。その他も、秋田県勤務の 1 名を除いて、関東圏周辺を占めた。

③ 教育の適切性と有効性

2025 年度より、Q18 ミッション達成度を測る項目が追加された。すべての項目において「非常にそう思う」が 15.0～17.5%、「ある程度そう思う」が 55～66%で、「ミッションに近づけた」と考える割合が 70～80%超という回答結果となった。ただし、学年ごとに分析すると卒後 5 年において、「どちらともいえない」と回答する層が一定数以上存在する。

Q19 教育到達目標の適切性については、すべての項目において「非常にそう思う」が 23～28%、「ある程度そう思う」が 65～68%で、総計して「適切である」と考える者の割合が 90%前後となる回答結果となった。とくに卒後 1 年で、「非常にそう思う」と回答した割合が高く、(1)（3）の

項目では 40%を越えた。

Q20「身についた能力」については、ほとんどの項目において「身についた」(「かなり身についた」「ある程度身についた」の合計）と回答する割合が全体で 8 割を超えたが、(4)「看護研究への関心」と（12)「語学など国際化への対応能力」、(16)「IT 時代に対応した情報スキル」については、他より低い結果となった。

Q21 カリキュラムの満足度では、2025 年度より 2021 カリキュラム受講の卒業生が含まれている。そこで、2013 カリキュラムと 2021 カリキュラムとの比較を行ったが、全体として、満足度においてカリキュラム間の大きな差は見られなかった。新旧ともに、ほぼすべての科目で満足度(「非常に満足」「どちらかと言えば満足」の合計）が 8 割を越えた。満足度がやや低いのは、共通して（２)「語学の授業」であり、2013 カリキュラムでは（8）専門科目：グローバルヘルス、2021 カリキュラムでは（10）専門科目：コミュニティヘルスケアであった。

「在学中にもっと学んでおけば良かったこと」は、もっとも回答者の割合が高かったものは、「看護の臨床技術」・「外国語科目・外国語能力」・「臨床医学の知識」がほぼ並ぶ結果となった。卒業年別に見ると、「外国語科目・外国語能力」の必要性をとくに実感しているのは卒後 2・5 年の卒業生であり、また卒後 5 年では「幅広い教養」や「論理的に考え、研究する力」の必要性も感じる傾向にあることが見て取れる。

④　母校の良かった点、改善すべき点、総合的評価

母校の良かった点に関しては、回答が多かった順に「施設」、「教員」、「部活やクラブ活動」となっており、自由回答では、とくにシミュレーションルームの環境を高く評価する声が多かった。

改善すべき点に関しては、49.2%が「特になし」と回答したが、改善を望む項目としては、「職員」、「教員」「施設」、「部活動やクラブ活動」、の順に回答が多かった。とくに卒後 1 年から職員の対応改善を望む声が多く、施設に関しては、エレベーターの使用制限や学生スペースの少なさを問題として挙げる声が目立った。

東京医科大学への総合的評価については、全体としては、(1)「カリキュラムに満足している」、(2)「教育内容に、全体として満足している」、(3)「教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」について、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合が 90%を超えた。とりわけ、(5)「卒業後も東京医科大学の卒業生同士のつながりを大切にしている」では、「非常にそう思う」の回答が 40.0%と最も高く、卒後 1 年（2025 年卒）では 53.8%と半数を超えた。一方で、(6)「卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている」については、「思わない」(「あまりそう思わない」（22.5%）＋「全くそう思わない」（9.2%)）と回答した割合が 31.7 %であり、とくに卒後 2 年（2024 年卒）は 38.3%であった。

年度別に見ると、卒後の経過年数により「非常にそう思う」の割合は低下するものの、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合は、とくに（1）～（3）および（7）の項目ではさほど変化していない。卒業後も、母校に対して一定以上の評価を保ち続けていることがうかがえる結果となった。

＜資料＞

1. 卒業生アンケート質問票

1. 卒業生アンケート質問票

Q1. あなたの卒業年を教えてください。

1. 2025 年卒（卒後 1 年目）
2. 2024 年卒（卒後 2 年目）
3. 2021 年卒（卒後 5 年目）

Q2. 性別を教えてください。

1. 男性
2. 女性
3. 回答なし

Q3. 卒業直後の進路を教えてください。

1. 就職した
2. 進学した（具体的な進学先名：　　）
3. それ以外（具体的に：　　）

分岐：Q3＝1 と回答した人は Q4 へ、　Q3＝2 もしくは 3 と回答した人は Q9 へ

＜卒業直後に就職した方に伺います＞

Q4. 卒業直後の就職先はどちらですか。

1. 東京医科大学病院（西新宿）
2. 茨城医療センター
3. 八王子医療センター
4. それ以外（具体的な就職先名：　　）

Q5. 卒業直後の業務上の職種を教えてください。

1. 看護師
2. 保健師
3. その他（具体的に：　　）

Q6. 卒業直後の雇用形態を教えてください。

1. 常勤
2. 非常勤
3. その他（具体的に　　）

Q7. 現在も同じ所に勤務していますか。

1. している
2. していない

分岐：Q7＝1 と回答した人は Q13 へ、 Q7＝2 と回答した人は Q8 へ

Q8-1. 卒業直後の勤務先の勤続年数を教えてください。

1. 1 年未満
2. 1 年以上～3 年未満
3. 3 年以上～5 年未満
4. 5 年以上

Q8-2. 退職理由を教えてください。（ ）

＜現在の状況について伺います＞

Q9. 現在の状況を教えてください。

1. 勤務をしている（具体的な勤務先名： ）
2. 進学している（具体的な進学先名： ）
3. その他（具体的に： ）

分岐：Q9＝1 と回答した人は Q10 へ、 Q9＝2 もしくは 3 と回答した人は Q12 へ

Q10. 現在の業務上の職種を教えてください。

1. 看護師
2. 保健師
3. 助産師
4. 養護教諭
5. その他（具体的に ）

Q11. 現在の雇用形態を教えてください。

1. 常勤
2. 非常勤
3. その他（具体的に ）

Q12. 現在の所属先の勤続年数を教えてください。

1. 1 年未満
2. 1 年以上～3 年未満
3. 3 年以上～5 年未満
4. 5 年以上

＜ここから全ての方に伺います＞

Q13. 現在の勤務地を教えてください。勤務されていない場合は「1.勤務地なし」でお答えください。

1. 勤務地なしで都道府県名のドロップダウンリスト。最後に「海外・その他」で記載

Q14. 卒業後に取得した資格を教えてください。

2. 保健師
3. 助産師
4. 養護教諭I種
5. 専門看護師（CNS）（具体的に：）
6. 認定看護師（CN）（具体的に：）
7. それ以外（具体的に：）

Q15. 卒業後に取得した学位を教えてください。

1. 修士（具体的に：）
2. 博士（具体的に：）

Q16. 卒業して社会に出たことで、“医療職として社会に貢献するという意識”は変化しましたか。

5. 大いに変化した
4. ある程度変化した
3. どちらでもない
2. あまり変化しなかった
1. 全く変化しなかった

Q17. 卒業してから今まで、社会貢献活動やボランティアなどの活動（災害支援、子どもの学習支援、学会や協会の委員/役員、地域奉仕活動など）に参加しましたか。具体的に教えてください。

＜東京医科大学医学部看護学科での教育について伺います＞

Q18 東京医科大学看護学科では卒業時に達成すべき教育到達目標を定めています。この教育到達目標はご自身の経験に照らして、適切なものであると考えますか。

① 思いやりの心をもって患者の人生に寄り添える医療人
② 高い倫理観を持ち、たゆまぬ自己研鑽により常に最善の医療を提供できる医療人
③ 患者にやさしい医療の実現のための研究・活動を通して明日の医療を拓く医療人

1. まったくそう思わない
2. あまりそう思わない
3. どちらとも言えない
4. ある程度そう思う
5. 非常にそう思う

Q19 東京医科大学看護学科では卒業時に達成すべき教育到達目標を定めています。この教育到達目標はご自身の経験に照らして、適切なものであると考えますか。

① 人間の尊厳を守り高い倫理観に基づいた行動がとれる。
② 科学的根拠に基づき判断し看護実践ができる。
③ 看護職の役割を認識し多職種と連携する基盤を身につける。
④ 生涯にわたって看護職として自己研鑽する力を身につける。

1. 非常にそう思う
2. ある程度そう思う
3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない

Q20. 東京医科大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

① 看護師としての倫理観
② 疾病や検査に関する知識
③ 協働のための協調性
④ 看護研究への関心
⑤ ものごとの問題点をみつけ解決方法を考える能力
⑥ 疾病予防の考え方と保健・医療制度の知識
⑦ 自己研鑽・自己啓発を継続的に行える学習習慣
⑧ 豊かな教養による社会を見る広い視野
⑨ 看護実践のための知識
⑩ 豊かな人間性
⑪ コミュニケーション能力（技法）
⑫ 語学など国際化への対応能力
⑬ 論理的な思考力
⑭ 医療安全についての知識
⑮ 礼儀・協調性・責任感などチーム医療に必要な能力
⑯ IT 時代に対応した情報スキル

⑰ 患者・家族に対する接遇・態度の能力
⑱ 自分の意見を筋道立てて表現する能力

1. かなり身についた
2. ある程度身についた
3. あまり身につかなかった
4. 全く身につかなかった

Q21. 東京医科大学在学中の各カリキュラムや設備に対して、どのくらい満足していますか。

【2023 年度卒までの方（2013 カリキュラム）】

① 一般教育系科目の授業・実習（語学を除く） 例）生命科学、心理学、現代社会と法（憲法）、情報科学
② 語学の授業
③ 専門基礎科目：病気と治療、保健医療福祉の仕組み 例）診断治療学、保健統計学
④ 専門科目：看護の基礎 例）看護学概論、看護リテラシーI・II
⑤ 専門科目：生活環境と看護の対象 例）健康生活支援論、看護対象論I・II、看護初期実習
⑥ 専門科目：看護援助の方法 例）治療看護技術論I～III、看護展開実習I～V
⑦ 専門科目：看護提供の仕組み 例）看護システムマネジメント論、看護システム実習
⑧ 専門科目：グローバルヘルス 例）災害看護論、国際看護活動論
⑨ 専門科目：看護の統合 例）看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究
⑩ 専門科目：コミュニティヘルスケア 例）地域看護学概論、地域看護学実習

4. 非常に満足
3. どちらかと言えば満足
2. どちらかと言えば不満
1. 非常に不満

【2024 年度卒の方（2021 カリキュラム）】

① 一般教育科目（語学を除く）例）生命科学、心理学、法学入門、統計学、アカデミックスキル、キャリアデザイン
② 語学の科目
③ 専門基礎科目：人間と健康、環境と健康 例）治療と疾病、公衆衛生学
④ 専門科目：看護の基礎 例）看護学概論、看護倫理I
⑤ 専門科目：看護の対象 例）看護対象論、看護基礎実習I、老年基礎実習、地域在宅援助論、在宅基礎実習
⑥ 専門科目：看護の方法 例）看護技術論、看護過程と EBN、看護基礎実習II、各看護学概論、各看護学援助論、領域別実習

⑦ 専門科目：グローバルヘルス　例）国際保健論、災害看護論
⑧ 専門科目：看護の統合と発展　例）看護システム論、看護システムマネジメント論、包括ケア実習、統合実習、卒業論文
⑨ 専門科目：パブリックヘルス　例）公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学実習

1. 非常に満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらかといえば不満
4. 非常に不満

Q21-2. そのほか、カリキュラムや科目についてご意見があれば聞かせてください。

Q22. 在学中にもっと学んでおけば良かった、身につけておけば良かったことはどのようなことですか。
(複数回答)

1. 幅広い教養教育（文学・歴史など）
2. 外国語科目・外国語能力
3. 治療診断系や臨床医学の知識
4. 看護の専門的な知識
5. 看護の臨床技術
6. 論理的に考え、研究する力
7. その他（具体的に：　　）
8. 特になし

Q23. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、良かったと思う点について教えてください。
該当する項目について、「良かったと思う点」の内容を、具体的にお書きください。

1. 施設（具体的に：　　）
2. 教員（具体的に：　　）
3. 職員（具体的に：　　）
4. 部活やクラブ活動（具体的に：　　）
5. その他（具体的に：　　）
6. 特になし

Q24. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、改善すべきと思う点について教えてください。
該当する項目について、「改善すべきと思う点」の内容を、具体的にお書きください。

1. 施設（具体的に：　　）

2. 教員（具体的に: ）
3. 職員（具体的に: ）
4. 部活やクラブ活動（具体的に: ）
5. その他（具体的に: ）
6. 特になし

Q25. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、総合的にどのように感じていますか。

① 東京医科大学のカリキュラムに満足している
② 東京医科大学の教育内容に、全体として満足している
③ 東京医科大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている
④ 東京医科大学の卒業生であることを誇りに思う
⑤ 卒業後も東京医科大学の卒業生同士のつながりを大切にしている
⑥ 卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている
⑦ 東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい

4. 非常にそう思う
3. ある程度そう思う
2. あまりそう思わない
1. 全くそう思わない

Q26. 東京医科大学の教育をより良くするためのご意見、または、東京医科大学へのご要望等を、自由にご記載ください。

本アンケート結果を公表した際にご連絡いたしますので、宜しければメールアドレスをお書きください。
（それ以外の目的には使用いたしません。）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

どうもありがとうございました。

5. おわりに

東京医科大学看護学科卒業生アンケートは、卒業生による本学教育への評価や卒業後の実績・キャリアの把握を通じて、教育プログラム改善を図るための資料とすることを目的に実施しています。2023 年度までは全卒業生に回答を依頼していましたが、卒業生が毎年回答する負担を考慮し、2024 年度からは卒後臨床研修等で変化の大きい卒後 1 年、2 年、5 年の卒業生を対象としています。2025 年度は発送数 247 件、回答数 120 件で、回収率は 48.6%でした。貴重なお時間を割き、丁寧にご回答くださった卒業生の皆様に、心より御礼申し上げます。

2015 年度に設立された東京医科大学教育 IR（Institutional Research）センターでは、「学修成果・教育成果を把握・検証する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、アンケート調査や各種指標の収集・分析を通じて、学修成果・教育成果の把握と可視化を継続的に行っています。卒業生アンケートもその一環に位置付けられます。本報告書が、本学における教育の質保証と教育プログラムの継続的な改善のための重要な情報（エビデンス）として活用されることを期待しています。

本調査は、多くの方々のご協力により実施することができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。特に、卒業生への連絡先をご提供いただいた東京医科大学看護同窓会、ならびに看護同窓会会長 石塚睦子先生に深く感謝申し上げます。また、本報告書をとりまとめるにあたり、教育 IR センター専門委員会の先生方から貴重なご助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

今後とも、教育 IR センターの活動にご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

東京医科大学　教育 IR センター
センター長　増渕　伸一

◆調査総括・結果検討

東京医科大学　教育 IR センター　専門委員会

委員長　　増渕　伸一　（教育 IR センター・センター長）

副委員長　井上　茂　　（公衆衛生学分野）

副委員長　小林　信　　（看護学科 精神看護学）

委員　　天野　景裕　（臨床検査医学分野）

篠田　章　　（生物学教室）

遠藤　寛子　（看護学科 在宅看護学）

瀬戸山　陽子 (教育 IR センター）

油川　ひとみ (教育 IR センター）

原　瑠美　　（教育 IR センター）

東京医科大学医学部看護学科　卒業生アンケート　結果報告書

作成　東京医科大学　教育 IR センター

2026 年 8 月 20 日発行

問い合わせ先

住所：東京都新宿区新宿　6-1-1

電話番号：03-3342-6111　内線：2072

メール：ir-cen@tokyo-med.ac.jp


東京医科大学
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY